

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2010 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～ “ わが家の生活防衛策 ” 第 20 弾 ～

2010 年 6 月



< 目 次 >

. 調査概要	1
1 . 調査の目的	2
2 . 調査の実施要領	2
3 . 回答者及び回答者世帯の基本属性	3
. 調査結果	5
〔 1 〕 この夏のボーナス	6
1 . この夏のボーナスの手取り額	6
2 . この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較	7
3 . ボーナスの今後の見通し	8
4 . ボーナスの主な使い道	9
5 . ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額	13
6 . 臨時ボーナスをあげたいと思う人	14
7 . 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると	15
〔 2 〕 わが家の家計	17
1 . 家計についての現状認識	17
2 . 今後の家計の見通し	19
〔 3 〕 わが家の生活防衛策	21
1 . 『夫に内緒の資産』の保有状況	21
2 . 家計防衛のための節約行動	30
3 . “ 儉約生活 ” について	32
(1) 儉約生活をしているかどうか	32
(2) 儉約生活に疲れを感じているか	33
(3) 儉約に疲れて、プチ贅沢をしたこと	34
(4) プチ贅沢の内容	35
4 . 最もよく利用している “ ごはんの友 ”	36
〔 4 〕 主婦の幸福度	37
1 . 現在の主婦生活の項目別幸福度	37
2 . 現在の主婦生活の幸福度	39
3 . 幸福度を高めるための重要項目	40
4 . 夫婦で一緒に夕食を摂る回数と希望する回数	41
5 . 夫婦での月平均のデート回数と希望する回数	44
6 . 夫婦円満のために欠かせない、削りたくないこと	46
〔 5 〕 長期休暇について	47
1 . 休暇の分散化に対する賛否	47
2 . 家族揃って休める長期休暇をとりたい時期	49
3 . 家族揃って休める長期休暇をとりたい日数	51
4 . 主婦の日頃の疲れを癒すためにとりたい休暇日数とその時にしたいこと	53

. 調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

20回目となる今回は、2010年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳的主婦500人

< サンプル配分 >

合 計	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成22年6月12日～6月16日

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡したお小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人
- ・今年の夏のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・夫に内緒の資産
- ・家計防衛のための節約行動や倹約生活について
- ・主婦生活に関する項目別幸福度
- ・現在の主婦生活の幸福度、幸福度を高めるための重要項目
- ・夫婦での夕食回数、デート回数（実態と期待）、夫婦円満のために欠かせないこと
- ・休暇の分散化に対する賛否、長期休暇をとりたい時期、とりたい日数
- ・主婦の日頃の疲れを癒すためにとりたい休曜日数とその時にしたいこと
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

妻の年齢

	サンプル数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	平均（歳）
全 体	500 100.0	9 1.8	116 23.2	40 8.0	85 17.0	69 13.8	56 11.2	90 18.0	35 7.0	39.9

妻の職業

	サンプル数	正 規 有 職	パ ー ト	専 業 主 婦
全 体	500 100.0	87 17.4	110 22.0	303 60.6
妻の年代	20代	125 100.0	30 24.0	68 54.4
	30代	125 100.0	27 21.6	76 60.8
	40代	125 100.0	17 13.6	36 28.8
	50代	125 100.0	13 10.4	25 20.0

世帯構成

	サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代4世代同居	親夫婦と子夫婦自分たち夫婦と親	その他
全 体	500 100.0	157 31.4	299 59.8	34 6.8	7 1.4	3 0.6
妻の年代	20代	125 100.0	60 48.0	59 47.2	5 4.0	1 0.8
	30代	125 100.0	29 23.2	88 70.4	7 5.6	- 0.8
	40代	125 100.0	28 22.4	82 65.6	13 10.4	2 1.6
	50代	125 100.0	40 32.0	70 56.0	9 7.2	4 3.2

扶養中の子ども

	サンプル数	いる	いない
全 体	500 100.0	300 60.0	200 40.0
妻の年代	20代	125 100.0	64 51.2
	30代	125 100.0	91 72.8
	40代	125 100.0	89 71.2
	50代	125 100.0	56 44.8

夫の勤務先での役職

		サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
全 体		500 100.0	197 39.4	143 28.6	93 18.6	67 13.4
妻の年代	20代	125 100.0	98 78.4	26 20.8	1 0.8	- -
	30代	125 100.0	46 36.8	56 44.8	20 16.0	3 2.4
	40代	125 100.0	33 26.4	32 25.6	38 30.4	22 17.6
	50代	125 100.0	20 16.0	29 23.2	34 27.2	42 33.6

夫の勤務先の業種

		サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
全 体		500 100.0	2 0.4	34 6.8	185 37.0	44 8.8	45 9.0	34 6.8	156 31.2
妻の年代	20代	125 100.0	1 0.8	10 8.0	48 38.4	8 6.4	15 12.0	8 6.4	35 28.0
	30代	125 100.0	1 0.8	6 4.8	44 35.2	14 11.2	10 8.0	10 8.0	40 32.0
	40代	125 100.0	- -	8 6.4	41 32.8	11 8.8	11 8.8	7 5.6	47 37.6
	50代	125 100.0	- -	10 8.0	52 41.6	11 8.8	9 7.2	9 7.2	34 27.2

住まいの形態

		サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
全 体		500 100.0	214 42.8	10 2.0	115 23.0	127 25.4	34 6.8
妻の年代	20代	125 100.0	24 19.2	3 2.4	16 12.8	64 51.2	18 14.4
	30代	125 100.0	54 43.2	2 1.6	32 25.6	28 22.4	9 7.2
	40代	125 100.0	64 51.2	4 3.2	29 23.2	24 19.2	4 3.2
	50代	125 100.0	72 57.6	1 0.8	38 30.4	11 8.8	3 2.4

. 調査結果

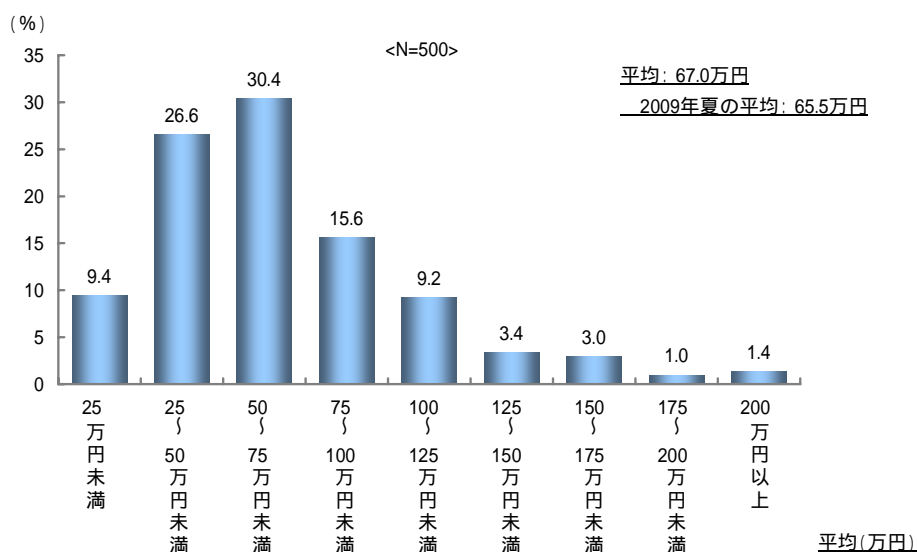
〔 1 〕 この夏のボーナス

『この夏のボーナス』とは 2010 年夏に夫が受給したボーナスを指し、奥様やお子様など他のご家族が受給したボーナスは含みません。

1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は、「67.0 万円」。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



妻の年代	20 代 <n=125>	30 代 <n=125>	40 代 <n=125>	50 代 <n=125>	夫の役職	平均(万円)									
						25 万円未満	25 ～ 50 万円未満	50 ～ 75 万円未満	75 ～ 100 万円未満	100 ～ 125 万円未満	125 ～ 150 万円未満	150 ～ 175 万円未満	175 ～ 200 万円未満	200 万円以上	
妻の年代	20 代 <n=125>	18.4	44.8	26.4	8.0	1.6	0.8	-	-	-	-	-	-	-	43.0
	30 代 <n=125>	8.0	28.8	38.4	12.8	8.8	0.8	1.6	-	0.8	-	-	-	-	61.6
	40 代 <n=125>	5.6	16.8	32.0	16.8	12.0	7.2	5.6	2.4	1.6	-	-	-	-	80.7
	50 代 <n=125>	5.6	16.0	24.8	24.8	14.4	4.8	4.8	1.6	3.2	-	-	-	-	82.9
夫の役職	役職なし <n=197>	16.8	39.6	31.0	9.1	2.5	1.0	-	-	-	-	-	-	-	46.8
	係長・主任クラス <n=143>	8.4	25.2	34.3	21.7	9.1	1.4	-	-	-	-	-	-	-	60.0
	課長クラス以上 <n=160>	1.3	11.9	26.3	18.1	17.5	8.1	9.4	3.1	4.4	-	-	-	-	98.3

夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞きました。

「50～75 万円未満」(30.4%) が最も多く、続く「25～50 万円未満」(26.6%) も合わせると、「25～75 万円未満」が 6 割近く (57.0%) を占めています。以下、「75～100 万円未満」(15.6%)、「25 万円未満」(9.4%)、「100～125 万円未満」(9.2%) などが続き、平均は「67.0 万円」となっています。

- 妻の年代別に受給額の平均をみると、上の年代ほど金額が高く、《20 代》(43.0 万円) と《50 代》(82.9 万円) では、その差は約 40 万円となっています。
- 夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(46.8 万円) と《課長クラス以上》(98.3 万円) では 50 万円以上の差があります。

昨夏の調査結果との比較

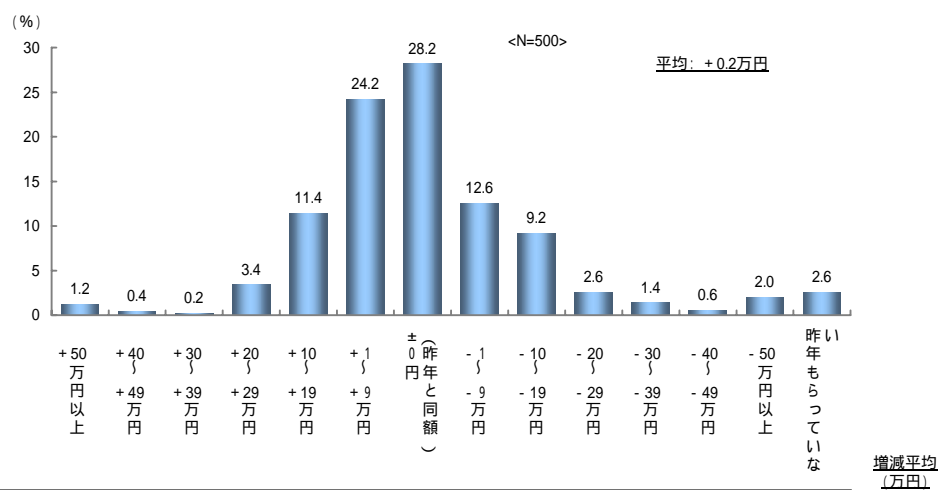
平均額は 65.5 万円 67.0 万円と、僅かながらアップしています。

2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較

“増えた”が4割強(40.8%)を占め、増減額の平均は「+0.2万円」。

“増えた”は、「+1～9万円」から「+50万円以上」の合計を表します。

図 2. この夏のボーナスと、昨夏のボーナスとの増減比較



		増減平均 (万円)														
		+50万円以上	+40万円	+30万円	+20万円	+10万円	+1万円	±0 (昨年と同額)	-1万円	-10万円	-20万円	-30万円	-40万円	-50万円以上	平均	
妻の年代	20代 <n=125>	0.8	-	-	5.6	12.0	37.6	16.8	12.8	8.0	-	1.6	0.8	-	4.0	+2.9
	30代 <n=125>	0.8	0.8	-	3.2	12.8	21.6	29.6	13.6	8.0	4.8	0.8	-	0.8	3.2	+0.8
	40代 <n=125>	1.6	0.8	0.8	2.4	7.2	20.8	36.8	12.0	9.6	2.4	1.6	0.8	1.6	1.6	-0.2
	50代 <n=125>	1.6	-	-	2.4	13.6	16.8	29.6	12.0	11.2	3.2	1.6	0.8	5.6	1.6	-2.8
夫の役職	役職なし <n=197>	-	0.5	-	4.6	7.1	28.4	30.5	12.7	10.7	0.5	0.5	0.5	1.0	3.0	+0.5
	係長・主任クラス <n=143>	0.7	-	-	1.4	16.1	27.3	23.1	12.6	9.1	3.5	1.4	0.7	1.4	2.8	+0.1
	課長クラス以上 <n=160>	3.1	0.6	0.6	3.8	12.5	16.3	30.0	12.5	7.5	4.4	2.5	0.6	3.8	1.9	-0.2

次に、昨年の夏のボーナスに対する増減をみると、“増えた”が4割強(40.8%)を占め、“減った”(28.4%)を上回っています。しかし、それぞれの増減額をみてみると、“増えた”人の平均(+11.5万円)よりも“減った”人の平均(-15.9万円)の方がやや高く、全体の平均は「+0.2万円」と僅かな増加にとどまっています。

- 妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えた”人の割合が高くなる傾向がみられ、増減額の平均も《20代》《30代》(順に+2.9万円、+0.8万円)ではプラス、《40代》《50代》(同-0.2万円、-2.8万円)ではマイナスになっています。
- 夫の役職別にみると、役職が上がるにつれて“減った”人の割合が高く、平均も《課長クラス以上》(-0.2万円)ではマイナスです。

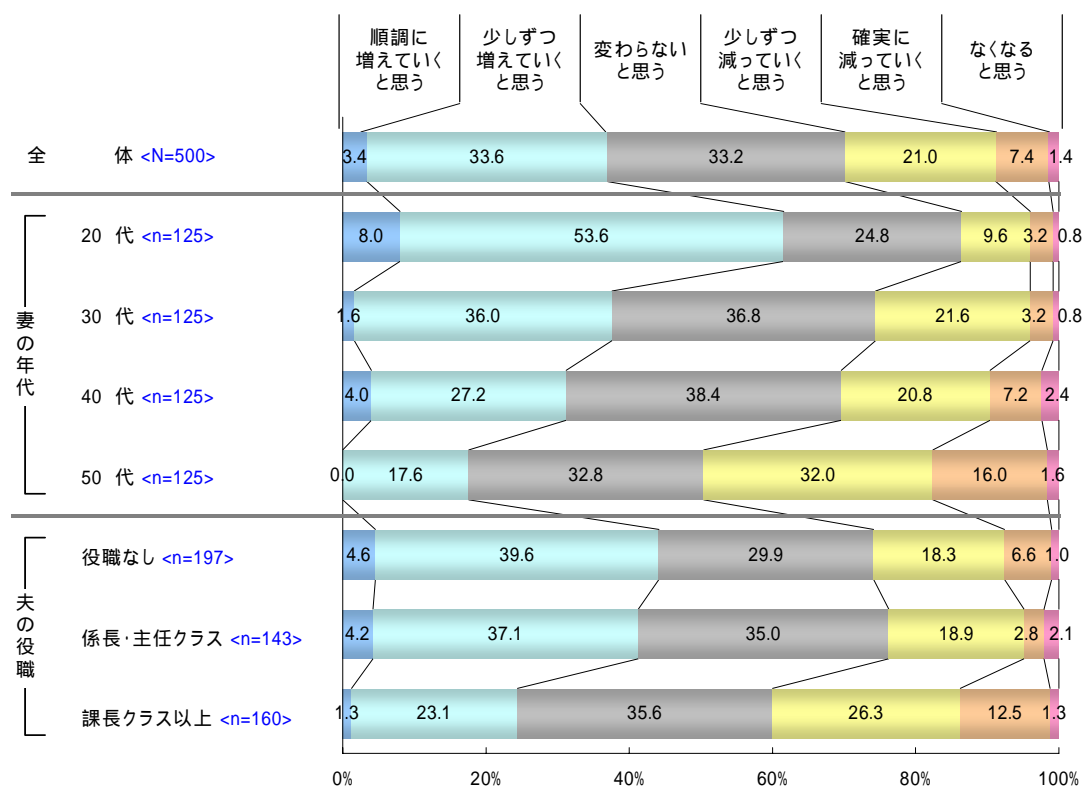
昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、“増えた”(20.6%→40.8%)、“減った”(53.6%→28.4%)と大幅に回復しておりますが、増減の平均は(-9.1万円→+0.2万円)であり、昨夏の減額が激しく、“増えた”とはいえ、金額についての増額は僅かにとどまったようです。

3. ボーナスの今後の見通し

“増えていくと思う”(37.0%)が“減っていく+なくなると思う”(29.8%)を上回り、前向きな見方が増加。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「少しずつ増えていくと思う」(33.6%)が最も多く、「順調に増えていくと思う」(3.4%)を合わせた“増えていくと思う”(37.0%)が、“減っていく+なくなると思う”(29.8%)を上回っています。

- 妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高く、特に《20代》では6割強(61.6%)と高率です。一方、《50代》では“増えていく”は1割台(17.6%)で、“減っていく+なくなると思う”(49.6%)の方が多くなっています。
- 夫の役職別にみると、《役職なし》《係長・主任クラス》では“増えていくと思う”(44.2%、41.3%)の方が“減っていく+なくなると思う”(25.9%、23.8%)よりも高率ですが、《課長クラス以上》になると、“減っていく+なくなると思う”が4割(40.0%)を占め、“増えていくと思う”(24.4%)を大きく上回っています。

昨夏の調査結果との比較

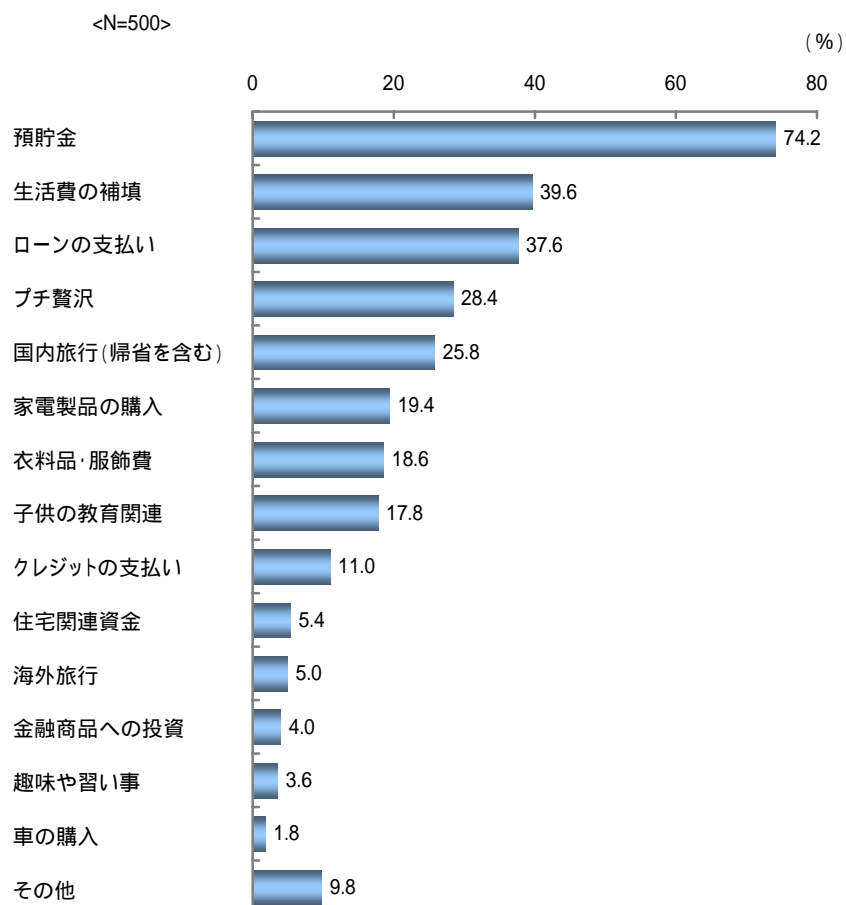
昨夏の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(25.6%→37.0%)は増加、“減っていく+なくなると思う”(40.8%→29.8%)は減少し、前向きな見方をする主婦が増加したようです。

4. ボーナスの主な使い道

「預貯金」(74.2%)がトップ。次いで「生活費の補填」(39.6%)、「ローンの支払い」(37.6%)が続く。

ボーナス総額に占める各用途の金額の内訳は、「預貯金」が約4割(39.9%)を占める。

図 4. この夏のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(74.2%)が断然多く、次いで「生活費の補填」(39.6%)、「ローンの支払い」(37.6%)が続き、“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。以下、「プチ贅沢」(28.4%)「国内旅行(帰省を含む)」(25.8%)「家電製品の購入」(19.4%)「衣料品・服飾費」(18.6%)「子供の教育関連」(17.8%)などがあげられています。

表 1. この夏のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

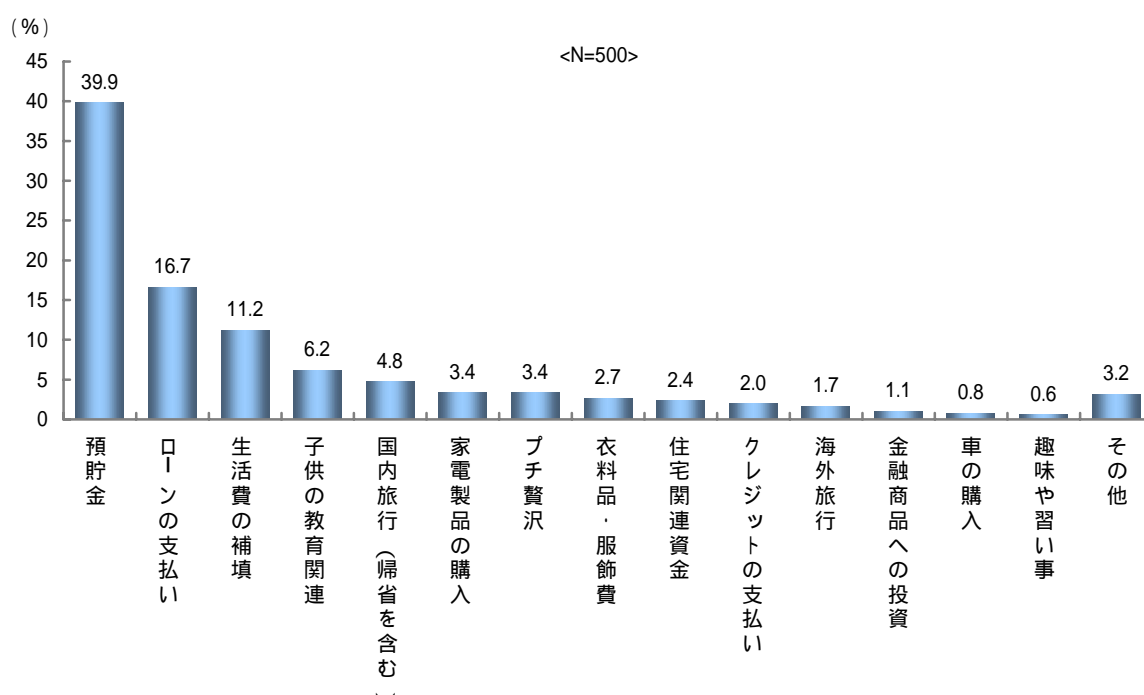
		サ ン プ ル 数	預 貯 金	生 活 費 の 補 填	ロ ー ン の 支 払 い	ブ チ 贅 沢	国 内 旅 行 （ 帰 省 を 含 む ）	家 電 製 品 の 購 入	衣 料 品 ・ 服 飾 費	子 供 の 教 育 関 連	ク レ ジ ット の 支 払 い	住 宅 関 連 資 金	海 外 旅 行	金 融 商 品 へ の 投 資	趣 味 や 習 い 事	車 の 購 入	そ の 他
	(%)																
妻の年代	20 代	125	84.8	32.0	25.6	33.6	24.0	14.4	20.0	3.2	8.0	6.4	4.8	4.0	5.6	2.4	7.2
	30 代	125	78.4	40.8	43.2	36.0	25.6	19.2	20.0	15.2	12.8	4.8	4.8	2.4	1.6	0.8	8.8
	40 代	125	67.2	36.0	43.2	21.6	28.0	24.8	16.8	32.0	11.2	4.0	3.2	4.8	5.6	2.4	13.6
	50 代	125	66.4	49.6	38.4	22.4	25.6	19.2	17.6	20.8	12.0	6.4	7.2	4.8	1.6	1.6	9.6
子供	いる	300	70.3	42.7	39.3	29.7	26.0	18.3	19.3	28.3	12.7	4.0	4.0	4.0	2.7	1.7	10.0
	いない	200	80.0	35.0	35.0	26.5	25.5	21.0	17.5	2.0	8.5	7.5	6.5	4.0	5.0	2.0	9.5
ローン	ある	241	66.8	46.1	62.7	26.1	23.7	18.3	18.7	24.1	11.6	5.0	5.0	3.7	2.9	1.7	10.0
	ない	259	81.1	33.6	14.3	30.5	27.8	20.5	18.5	12.0	10.4	5.8	5.0	4.2	4.2	1.9	9.7
世帯年収	600万円未満	176	76.7	42.6	31.8	36.4	27.3	17.0	20.5	8.5	9.1	6.3	1.7	2.8	4.0	1.7	11.9
	600～800万円未満	117	66.7	42.7	42.7	26.5	27.4	12.8	17.9	13.7	16.2	3.4	2.6	2.6	3.4	0.9	10.3
	800～1000万円未満	89	75.3	39.3	40.4	18.0	24.7	27.0	19.1	25.8	12.4	6.7	4.5	5.6	5.6	3.4	4.5
	1000万円以上	118	77.1	32.2	39.0	26.3	22.9	23.7	16.1	29.7	7.6	5.1	12.7	5.9	1.7	1.7	10.2
受給額	50万円未満	180	67.2	38.3	30.0	29.4	20.0	12.2	15.6	8.9	6.7	6.7	1.7	2.2	2.8	1.1	10.6
	50～100万円未満	230	77.4	39.6	40.0	30.0	27.0	21.3	21.3	19.6	10.9	3.0	6.5	3.0	3.9	3.0	8.7
	100万円以上	90	80.0	42.2	46.7	22.2	34.4	28.9	17.8	31.1	20.0	8.9	7.8	10.0	4.4	-	11.1

- 妻の年代別にみると、「預貯金」「プチ贅沢」は《20 代》《30 代》の若い年代で高くなる傾向がみられ、「ローンの支払い」では《30 代》以上、「子供の教育関連」は《40 代》（32.0％）で他の年代よりも高くなっています。
- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、《いない》人は「預貯金」（80.0％）が一層高くなっているのに対し、《いる》人では「子供の教育関連」（28.3％）に加え、「生活費の補填」（42.7％）などが《いない》人に比べて高くなっています。
- 住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ない》人は「預貯金」（81.1％）が高率なのに対し、《ある》人では「ローンの支払い」（62.7％）に加え、「生活費の補填」（46.1％）が高くなっており、住宅ローンも家計のゆとり大きく影響しているようです。
- 世帯年収別にみると、年収が高い人ほど「子供の教育関連」が高くなる傾向があり、《1,000 万円以上》の層では「海外旅行」（12.7％）が突出して高くなっています。また、“600 万円以上”では「ローンの支払い」も高くなっています。
- ボーナス受給額別にみると、「ローンの支払い」「国内旅行（帰省を含む）」「家電製品の購入」「子供の教育関連」など、高額の人ほど高率な項目が多く、さまざまな用途に使っています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、「預貯金」（51.6％ 74.2％）が 20 ポイント以上、「プチ贅沢」（14.2％ 28.4％）は 10 ポイント以上増えており、昨年よりもボーナス受給額が増え、やりくり余裕ができたことがうかがえます。

図 5 . ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値を％に換算したもの）

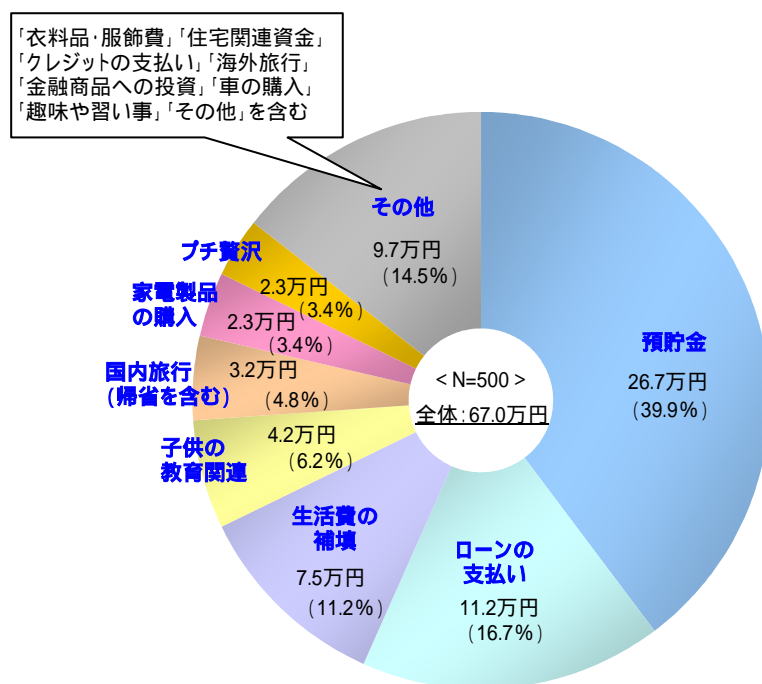


次に、夏のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を％に換算したもの）。

割合の平均値をみると「預貯金」(39.9%)が断然高く、ボーナス総額の4割近くが預貯金に回されている計算になります。次いで「ローンの支払い」(16.7%)、「生活費の補填」(11.2%)が続き、このトップ3で3分の2強(67.8%)を占めています。以下、「子供の教育関連」(6.2%)、「国内旅行（帰省を含む）」(4.8%)「家電製品の購入」「プチ贅沢」(いずれも3.4%)「衣料品・服飾費」(2.7%)「住宅関連資金」(2.4%)「クレジットの支払い」(2.0%)などの順で、使い道では約3割の回答があった「プチ贅沢」も、総額では3.4%となるなど、全体ベースでみると贅沢に充てる予算はいずれも1割未満と少なくなっています。

図 5-1 . ボーナスの主な使い道が総額に占める割合

(この夏のボーナス平均手取額 67.0 万円を総額とし、金額に換算)



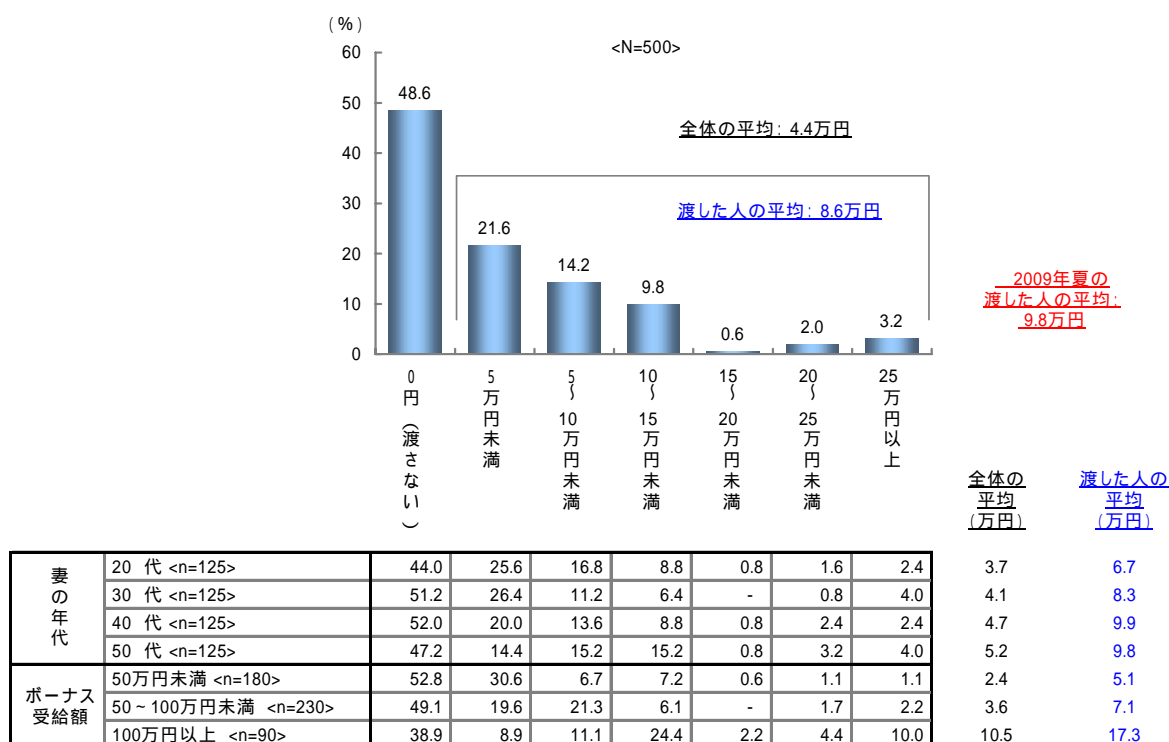
参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「67.0 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 26.7 万円となりました。

例えば「国内旅行 (帰省を含む)」（3.2 万円）は実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でなると、一家庭当たり 3.2 万円に当たることを示しています。

5. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額

「0円(渡さない)」が約半数(48.6%)を占める。“渡した(渡そうと持っている)”人では、「5万円未満」(21.6%)が最も多く、次いで「5～10万円未満」(14.2%)、「10～15万円未満」(9.8%)などが続き、“渡した(渡そうと持っている)”人の平均金額は「8.6万円」。

図 6. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

「0円(渡さない)」が半数近く(48.6%)を占めており、ボーナス受給額は増えたものの、夫の小遣いはまだまだ厳しい状況のようです。そのほかでは「5万円未満」(21.6%)が多く、次いで「5～10万円未満」(14.2%)、「10～15万円未満」(9.8%)などが続き、“渡した”人の平均は「8.6万円」となっています。

- 妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《20代》6.7万円、《30代》8.3万円、《40代》9.9万円、《50代》9.8万円、と上の年代ほど高くなる傾向がみられます。
- ボーナス受給額別にみると、受給額が高い人ほどお小遣いの平均額も高く、《100万円以上》(17.3万円)が《50万円未満》(5.1万円)の3倍以上となっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、“0円(渡さない)”(48.0% → 48.6%)の割合は高止まりしております。また、渡した額の平均は9.8万円 → 8.6万円と1万円以上ダウンしています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

芸能界では「嵐」(45件)、スポーツ界では「石川遼」(44件)、「浅田真央」(42件)、「イチロー」(40件)、その他の分野では、「蓮舫」(14件)が多い。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

芸能界			スポーツ界			その他		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	嵐	45	1	石川遼	44	1	蓮舫	14
2	福山雅治	9	2	浅田真央	42	2	親	8
3	はるな愛	8	3	イチロー	40	3	自分	7
4	ビートたけし	7	4	高橋大輔	21	4	鳩山由紀夫	5
5	加藤清史郎	5	5	本田圭祐	20	5	はやぶさ(小惑星探査機)	4
	EXILE	5	6	岡田武史	5		東国原英夫	4
7	AKB48	4	7	松井秀喜	4	7	山崎直子	3
	ねづっち	4	8	伊達公子	3			
	ベッキー	4		坂本勇人	3			
	明石家さんま	4						

2010 年前半に、大いに活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

芸能界では「嵐」(45件)が圧倒的に多く、そのほかは「福山雅治」(9件)、「はるな愛」(8件)、「ビートたけし」(7件)、「加藤清史郎」「EXILE」(各5件)など、いずれも10件未満です。

スポーツ界では「石川遼」(44件)、「浅田真央」(42件)、「イチロー」(40件)がトップ3にあげられています。次いで、「高橋大輔」(21件)、「本田圭祐」(20件)などが続いています。

その他の分野では、「蓮舫」(14件)がトップ、次いで「親」(8件)、「自分」(7件)、「鳩山由紀夫」(5件)、「はやぶさ(小惑星探査機)」「東国原英夫」(各4件)などの順となっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の第1位と比べると、

【芸能界】「オードリー」(18件) 「嵐」(45件)

【スポーツ界】「イチロー」(107件) 「石川遼」(44件)

【その他】「辻井伸行(ピアニスト)」(22件) 「蓮舫」(14件)

となっています。

7. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスが 去り行く速さは シャトルなみ」「梅雨入りに この日を迎えて 気持ち晴れ」「ボーナスで 旦那の支持率 急降下」「今年こそ 地デジのテレビ 買ってやる」など、受給額によって主婦の思いもさまざま。

表 3. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数
1	家計のやりくりの大変さ	123
2	ボーナスが出たことへの感謝	35
3	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	29
4	使い道は貯蓄が最優先	25
5	ボーナスが出ただけマシ	23
6	今後のボーナスが不安	20
7	夫への感謝の気持ち	18
8	使い道は旅行や食事	17
9	ボーナスの額を見て喜んだ	15
10	ボーナスに期待していない	10

夏のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(123件)を詠んだものが圧倒的に多く、次いで「ボーナスが出たことに感謝」する人や「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」を表現する人が多くなっています。

実際に詠まれた川柳から代表例を以下にあげたいと思います。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・教育費 ボーナス以上に 上昇中
- ・ボーナスが 去り行く速さは シャトルなみ
- ・ボーナスが なければ我が家は なりたらず
- ・底なしの 厳しい仕分け 我が家にも
- ・ボーナスは 日々の赤字を 埋めるもの

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・ひと安心 「おとな手当」が やっと出た
- ・転職後 初ボーナスに 安堵する
- ・ありがたい 今年入社で もらえれば
- ・残らない わかっているけど 嬉しいな
- ・ささやかな ボーナスだけど ハッピーさ
- ・梅雨入りに この日を迎えて 気持ち晴れ

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスと 給料同額 気分ガクッ
- ・ボーナスで 旦那の支持率 急降下
- ・また減った 日ごろの頑張り 伝わらず
- ・景気よし ボーナス上昇？ いや据え置き

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・浮かれない 気をひきしめて 貯金する
- ・今年こそ 老後に備え 貯蓄したい

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・ボーナスが 出ただけましと 思わなきゃ

【今後のボーナスが不安】

- ・増えるのは ボーナスじゃなく 不安感

【夫への感謝の気持ち】

- ・ボーナスが 出た日は旦那が お殿様
- ・ボーナスの 重みの分だけ 感謝する
- ・半年間 お疲れ様と ホットする
- ・ありがとう 夫に深く 感謝の日

【使い道は旅行や食事】

- ・ボーナス日 夫に内緒で プチエステ
- ・懐にしまって 夢見る ヨーロッパ
- ・待ってたよ これでバーゲン 行きたいな
- ・今年こそ 地デジのテレビ 買ってやる
- ・計画的に 仕分けして ママグルメ

【ボーナスの額を見て喜んだ】

- ・少しでも 景気の上向き 感じた日
- ・微増でも 飛び上がるほど 嬉しいな

【ボーナスに期待していない】

- ・ボーナスに 期待をしない 癖がつき
- ・それよりも 子供手当に 期待する
- ・ボーナスに ワクワクした日 なつかしい

【その他】

- ・「来年は 景気回復」 祈る妻
- ・ボーナスを 両手で重さ 感じたい
- ・ボーナスが あれば旅行 なければ出前寿司

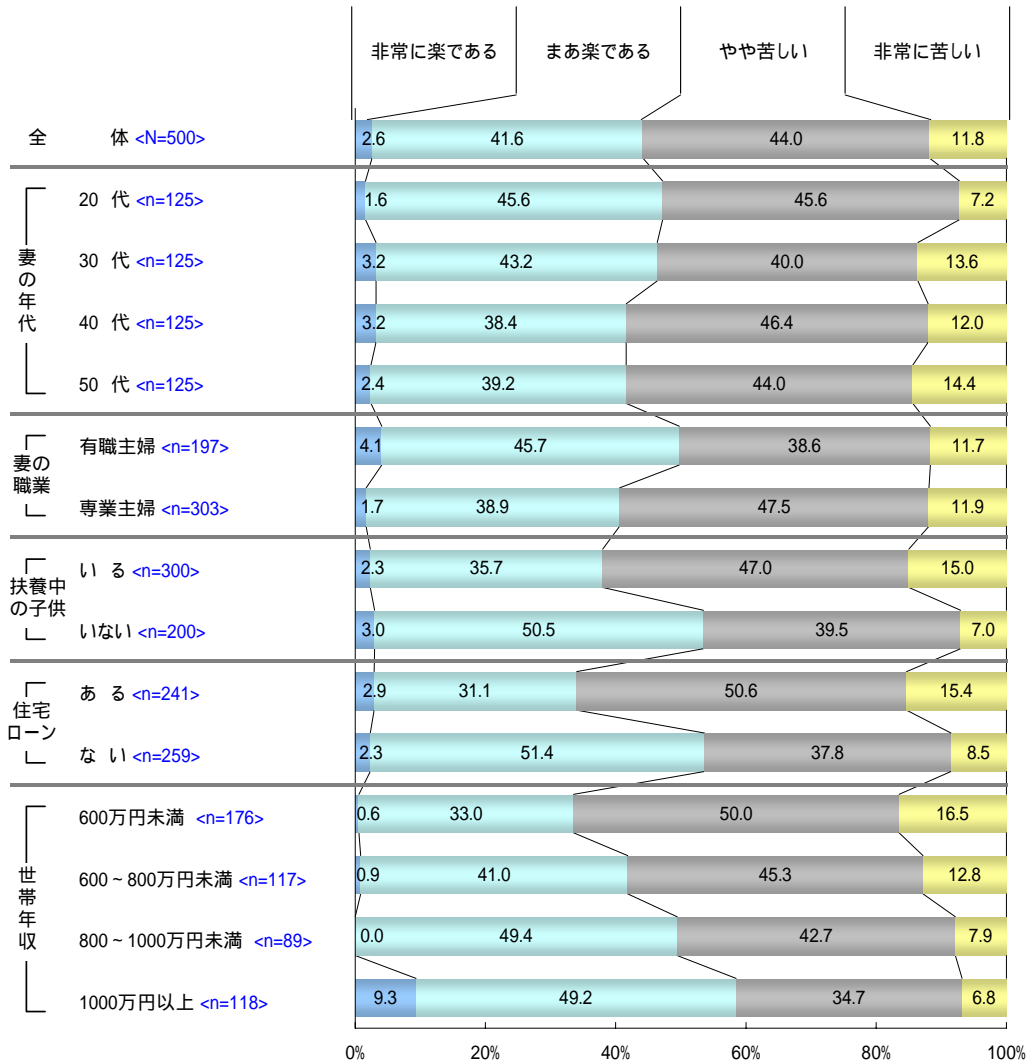
〔 2 〕 わが家の家計

1. 家計についての現状認識

“苦しい”が半数以上 (55.8%) を占め、“楽である” (44.2%) をやや上回る。

“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 7. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いたところ、“苦しい”が半数以上 (55.8%) を占め、“楽である” (44.2%) を上回っています。

- 妻の年代別にみると、《40代》《50代》で“苦しい”(いずれも 58.4%) の割合が比較的高くなっており、子供の教育関連や住宅ローンなどが家計を圧迫しているのかもしれない。
- 妻の職業別にみると、“苦しい”の割合は《専業主婦》(59.4%)の方が《有職主婦》(50.3%)より高くなっています。

- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“ 苦しい ” の割合は《いる》では 6 割強（62.0%）を占めており、《いない》（46.5%）よりも 15 ポイントほど上回っています。
- 住宅ローンの有無別にみると、“ 苦しい ” という認識はローンが《ある》（66.0%）が《ない》（46.3%）を 20 ポイント近く上回っています。
- 世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“ 楽である ” の割合が高く、《600 万円未満》（33.6%）と《1000 万円以上》（58.5%）とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

昨夏の調査結果との比較

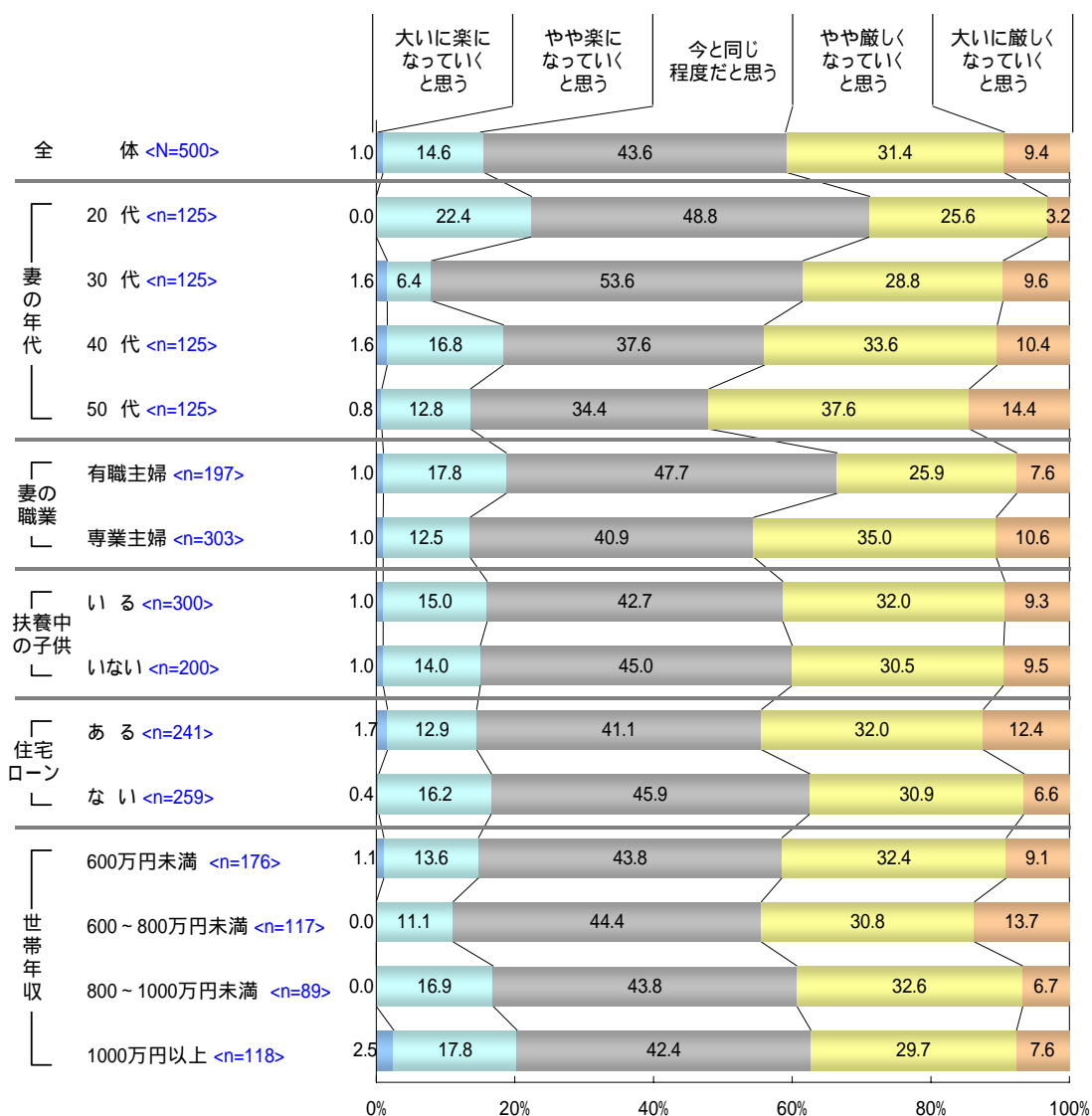
昨夏の調査結果と比べると、“ 苦しい ” が 61.6% 55.8%とやや下がっています。

2. 今後の家計の見通し

“厳しくなっていく” が4割強 (40.8%) を占め、“楽になっていく” (15.6%) は1割台にとどまる。

“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 8 . 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、“楽になっていく” (15.6%) と前向きにとらえている人は1割台にとどまり、“厳しくなっていく” (40.8%) と考えている人が4割強を占めています。また、「今と同じ程度だと思う」 (43.6%) という人も4割を超えています。

- 妻の年代別にみると、“厳しくなっていく” は年代にともない高くなり、《50代》 (52.0%) では半数を超えています。
- 妻の職業別にみると、《専業主婦》の方が“厳しくなっていく” (45.6%) の割合が高

くなっています。

- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別による違いはみられません。
- 住宅ローンの有無別にみると、“ 楽になっていく ” の割合に差はありませんが、“ 厳しくなっていく ” の見方はローンが《ある》（44.4%）方が《ない》（37.5%）より多くなっています。
- 世帯年収別にみると、“ 厳しくなっていく ” の割合は《600～800万円未満》（44.4%）で最も高くなっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、“ 楽になっていく ”（12.2% 15.6%）に大きな変化はありませんが、“ 厳しくなっていく ”（50.0% 40.8%）は10ポイント近く減少し、これ以上家計が悪化するという見方をする人よりも、「今と同じ程度だと思う」（37.8% 43.6%）人が多くなっています。

〔 3 〕 わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

4割以上(45.0%)が『夫に内緒の資産』を持っている。

内緒の資産を持っている人の平均額は「364.5 万円」。目的は「何かあったときの備え」(54件)、「老後の備え」(50件)、「自分の趣味や買い物のための資金」(31件)がトップ3。

内緒の資産を得た理由は、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(51.1%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(41.3%)が多い

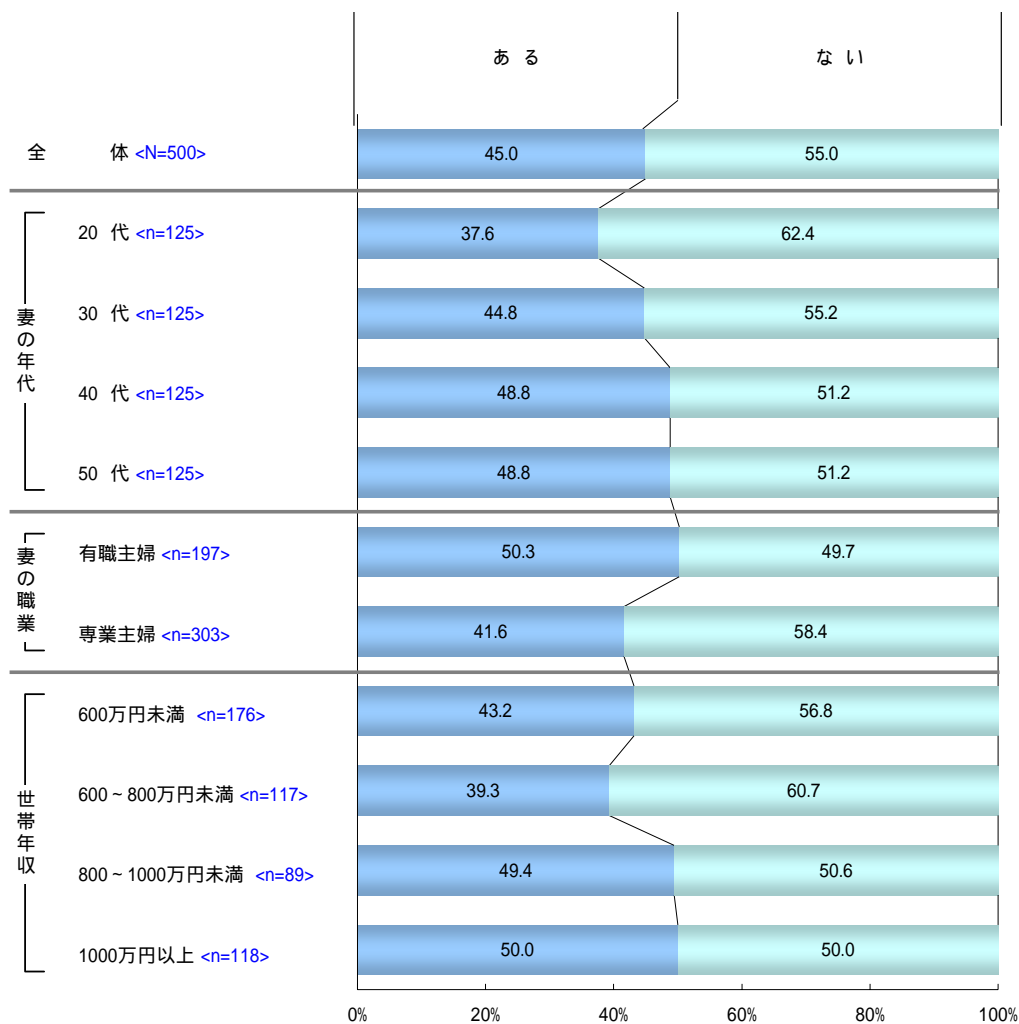
今年に入ってから増減は、「減った」(34.2%)が「増えた」(27.6%)をやや上回る。

増えた理由は、「自分の収入や夫の収入が増えた」(33.9%)がトップ。

減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(42.9%)がトップ。

『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない奥様名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 9. 『夫に内緒の資産』の有無



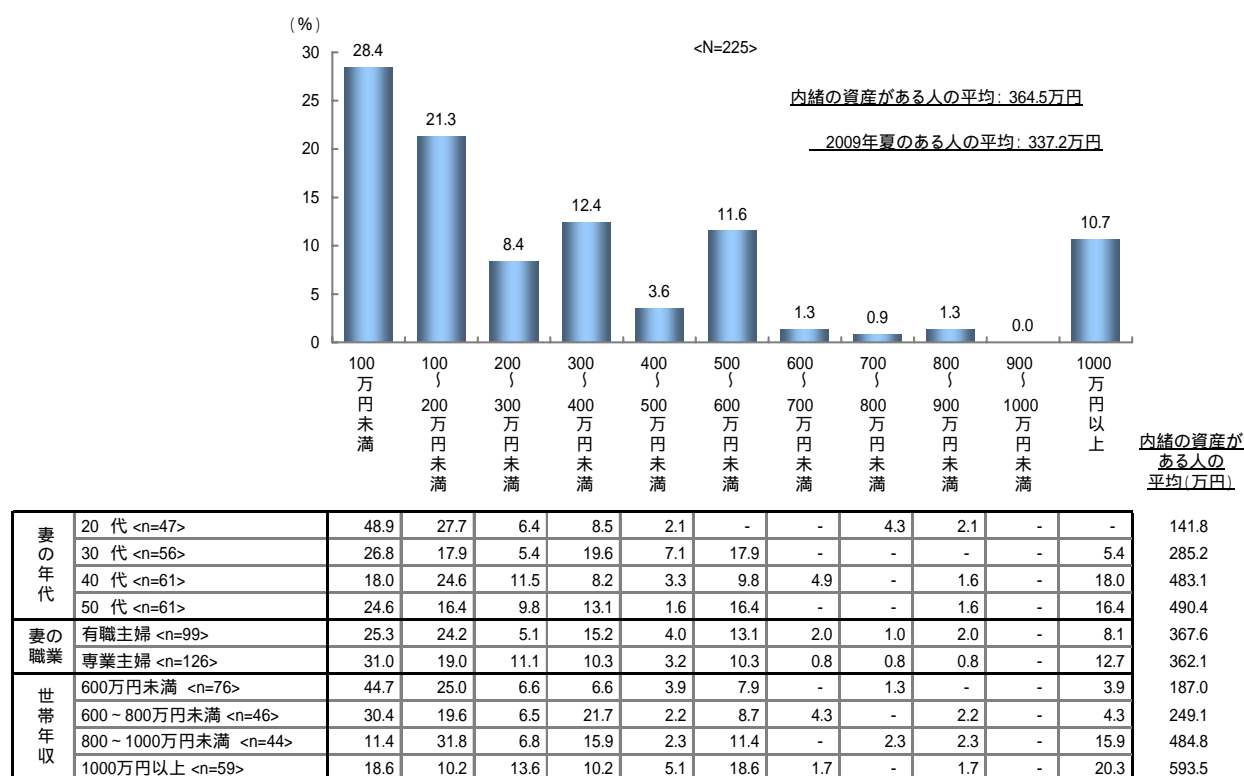
サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、4 割以上(45.0%)が「ある」と回答しています。

- 妻の年代別にみると、保有率は《30 代》以上で 4 割以上と高くなっており、《20 代》(37.6%)ではやや低めです。
- 妻の職業別にみると、保有率は《有職主婦》(50.3%)の方が《専業主婦》(41.6%)より高くなっています。
- 世帯年収別にみると、保有率は《800～1000 万円未満》《1000 万円以上》で半数前後と高くなっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、資産を持っている人の割合は、34.8% 45.0%と 10 ポイント以上高くなっています。

図 10.『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



次に、『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100万円未満」(28.4%)が最も多く、以下「100～200万円未満」(21.3%)、「300～400万円未満」(12.4%)、「500～600万円未満」(11.6%)、「1,000万円以上」(10.7%)などが続き、資産額は分散しています。資産保有者の平均額は「364.5万円」です。ちなみに、最高金額は5,000万円(1名)でした。

- 妻の年代別に資産額の平均をみると、年代にともなって金額が高くなり、《50代》(490.4万円)が《20代》(141.8万円)の3倍以上となっています。
- 妻の職業別にみると、《有職主婦》(367.6万円)と《専業主婦》(362.1万円)に目立った違いはみられません。
- 世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど資産額が高くなっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、平均金額は337.2万円→364.5万円と、27.3万円増加しています。なお、平均金額364.5万円は夏の調査では最高額になります。

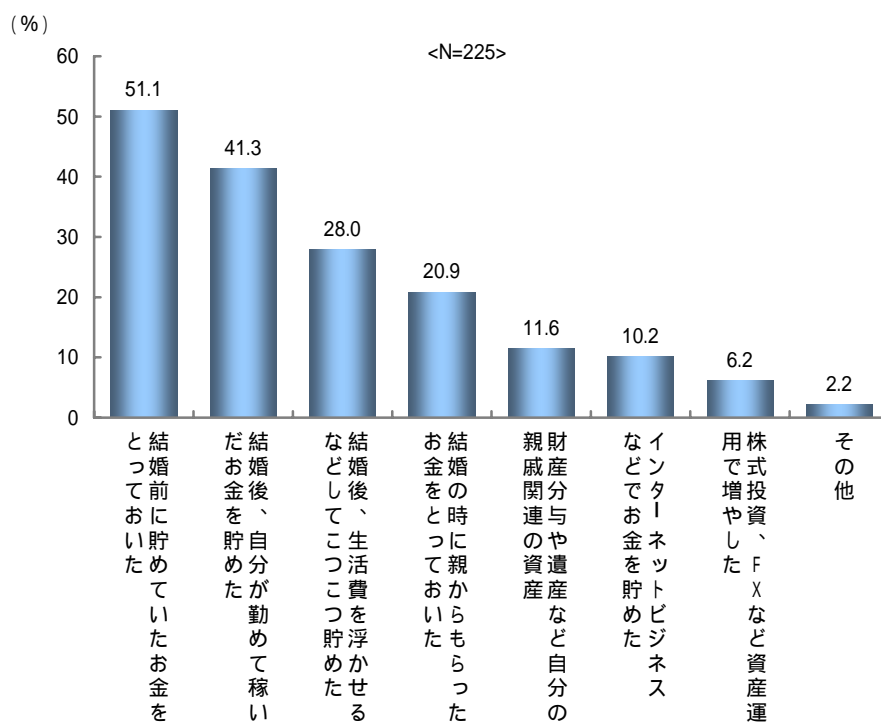
表 4.『夫に内緒の資産』を持つ目的

順位		件数
1	何かあったときの備え	54
2	老後の備え	50
3	自分の趣味や買い物のための資金	31
4	子供の将来のための資金	25
5	離婚の備え	13
6	家族が病気になった時の備え	9
7	失業などで経済的に困った時の備え	7
	将来の備え	7
9	旅行の資金	6
10	両親のための資金	4
11	資産運用	3

夫に内緒の資産をどのようなことに使うために持っているのかを自由にあげてもらいました。

「何かあったときの備え」(54件)、「老後の備え」(50件)がいずれも50件以上と多く、ほかにも「離婚の備え」(13件)、「家族が病気になった時の備え」(9件)など、急な出費や今後の生活の変化に備える人が多くなっています。一方で、「自分の趣味や買い物のための資金」(31件)、「旅行の資金」(6件)など、自分のお小遣いと考えている人も少なくありません。

図 11.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



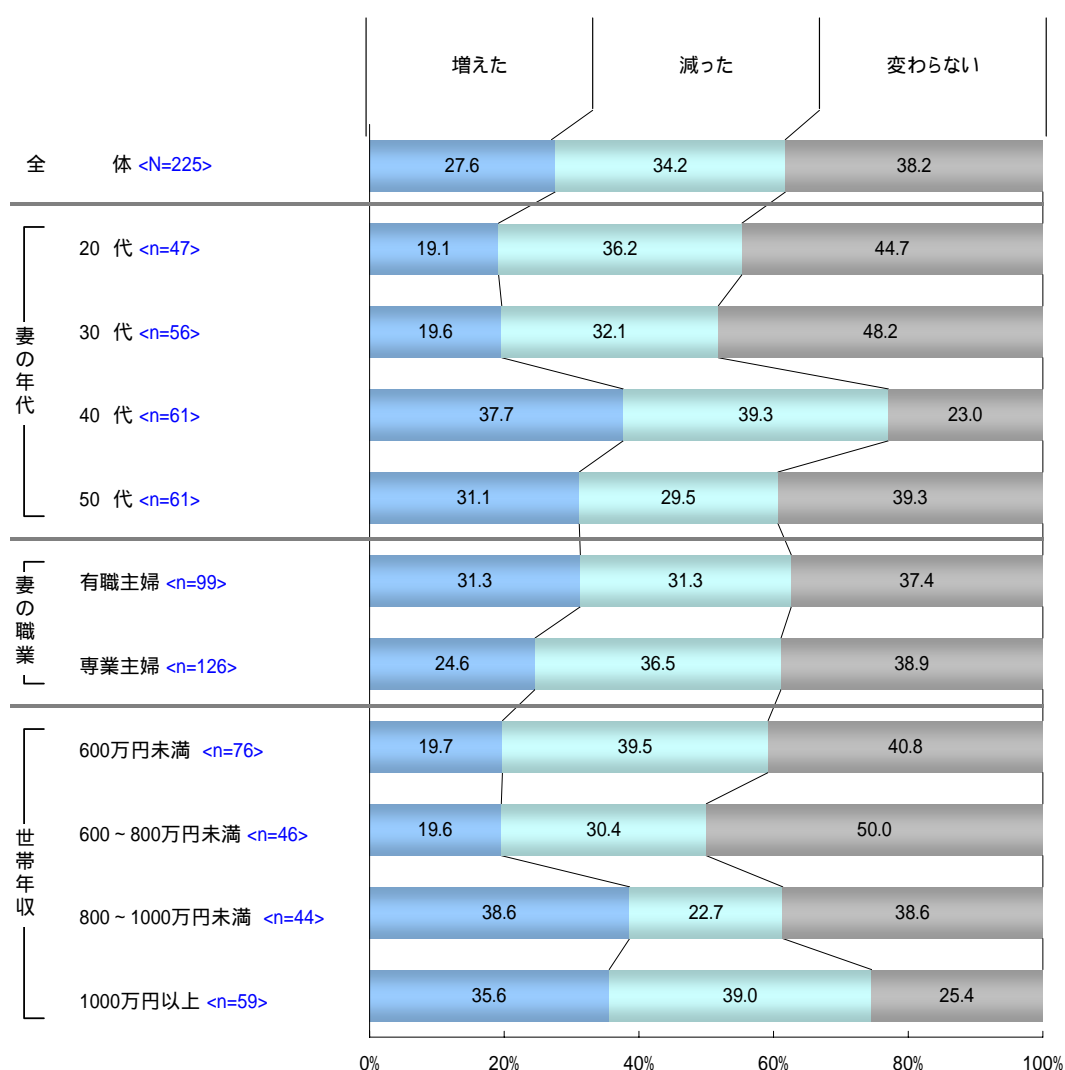
『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(51.1%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(41.3%)が続く。「自分で働いて貯めた」お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(28.0%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(20.9%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(11.6%)など節約や親類にもらったケースが続いています。「インターネットビジネスなどでお金を貯めた」(10.2%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(6.2%)といった副業や投資によるケースは比較的少数です。

表 5.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）【内緒の資産額別％表】

		(%)	サンプル数	いたお金の貯めたい前	結婚後、自分のお金を貯めた	結婚後、生活費を貯めた	浮かせた貯めたい	結婚の時に金をとった	もったいない	財産分与や遺産など	自分の親戚など	ネットオークション	作品の売却など	お金の貯めたい	株式投資、FXなど	資産運用で増やしたい	その他
内 緒 の 資 産	100万円未満	64	26.6	32.8	37.5	18.8	4.7	10.9	4.7	6.3							
	100～200万円未満	48	47.9	31.3	27.1	14.6	16.7	10.4	8.3	-							
	200～300万円未満	19	52.6	57.9	26.3	31.6	5.3	10.5	10.5	-							
	300～500万円未満	36	77.8	41.7	19.4	13.9	8.3	11.1	2.8	-							
	500～1000万円未満	34	67.6	44.1	29.4	17.6	14.7	5.9	-	-							
	1000万円以上	24	58.3	66.7	16.7	45.8	25.0	12.5	16.7	4.2							

参考までに内緒の資産額別の傾向をみると、【100 万円未満】では「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」(37.5%)が多くなっていますが、【100 万円】以上では「結婚前に貯めておいたお金をとっておいた」「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」が多くなっています。また、【1000 万円以上】は「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」が比較的高率です。

図 12 . 今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減



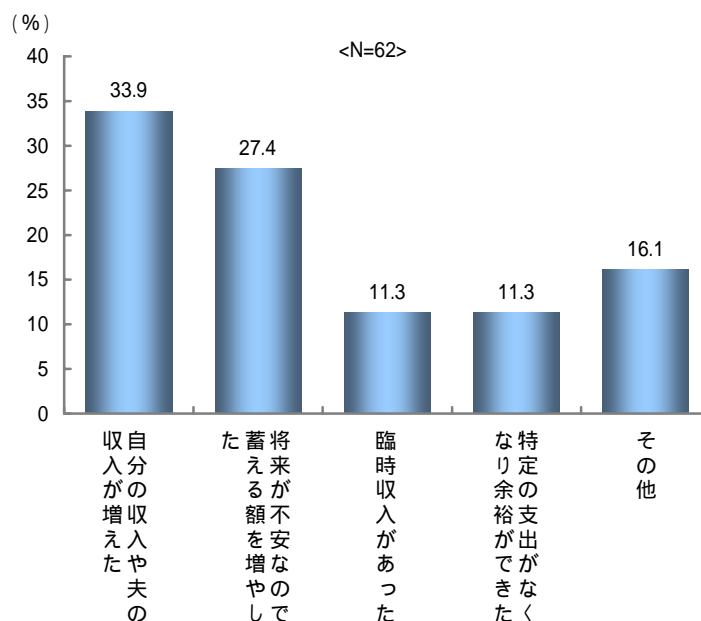
次に、今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」(38.2%)が約4割を占めていますが、「減った」が3割強(34.2%)で「増えた」(27.6%)をやや上回っています。

- 妻の年代別にみると、「増えた」「減った」とも《40代》(37.7%、39.3%)で最も多くなっています。
- 妻の職業別にみると、「増えた」は《有職主婦》(31.3%)の方が《専業主婦》(24.6%)よりやや多くなっています。
- 世帯年収別にみると、「増えた」は《800～1000万円未満》《1000万円以上》で多くなっています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果と比べると、「増えた」(15.5% → 27.6%)が10ポイント以上増加しています。

図 13 .「増えた」最も大きな理由

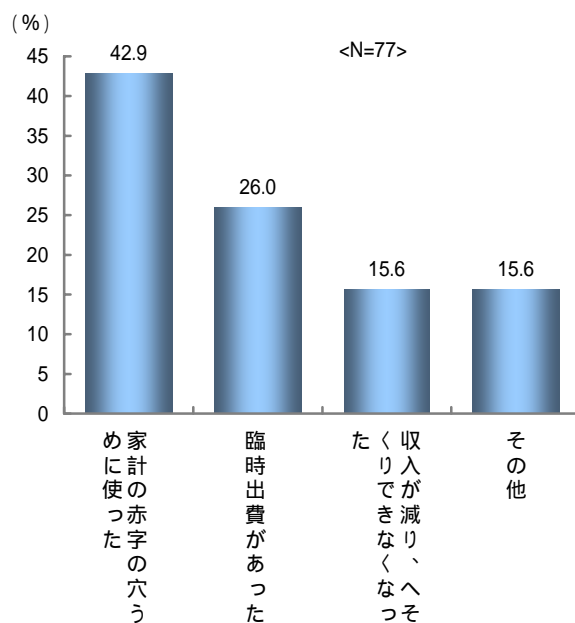


増えた人の理由をみると、「自分の収入や夫の収入が増えた」(33.9%) が最も多く、次いで「将来が不安なので蓄える額を増やした」(27.4%) が続き、「臨時収入があった」「特定の支出がなくなり余裕ができた」は1割強(いずれも 11.3%)となっています。なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「遺産相続」「株式上場」「配当」「FX など投資」などがあげられています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果をみると、「自分や夫の収入が増えた」(33.3%)、「不況で心配だから蓄える額を増やした」(25.9%)、「臨時収入があった」(22.2%) がトップ3 にあげられており、傾向に変化はみられません。

図 14 .「減った」最も大きな理由



一方、減った人の理由は「家計の赤字の穴うめに使った」(42.9%) がトップ、次いで「臨時出費があった」(26.0%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(15.6%) の順となっています。なお、「臨時出費があった」の具体的な内容としては、「冠婚葬祭」「家族の病気の治療費」「引っ越し・住宅購入資金」「海外旅行」「実家への帰省費用」などがあげられています。

昨夏の調査結果との比較

昨夏の調査結果をみると、「不況のため赤字の穴うめに使った」(32.4%)、「臨時出費があった」(29.7%)、「不況で収入が減り、へそくりできなくなった」(23.0%) の順となっており、傾向に変化はみられません。

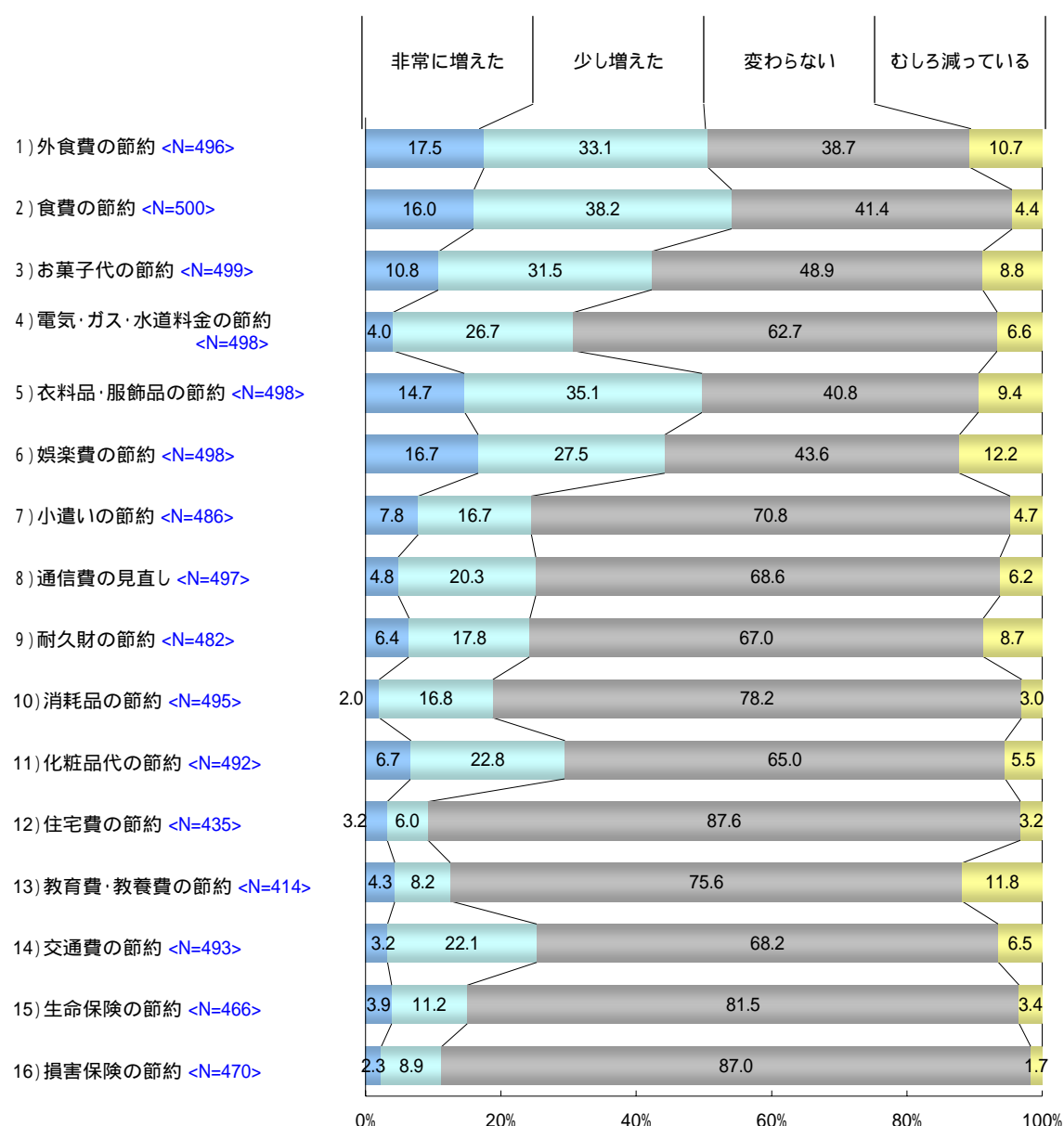
2. 家計防衛のための節約行動

以前に比べ節約する機会が“増えた”項目は、「食費の節約」(54.2%)、「外食費の節約」(50.6%)、「衣料品・服飾品の節約」(49.8%)、「娯楽費の節約」(44.2%)、「お菓子代の節約」(42.3%)など。

一方、節約する機会が「むしろ減った」との回答は、「娯楽費の節約」(12.2%)、「教育費・教養費の節約」(11.8%)、「外食費の節約」(10.7%)などが多い。

“増えた”は、「非常に増えた」「少し増えた」の合計を表します。

図 15 . 節約する機会は以前に比べ増えているか



以前に比べ節約する機会が増えているかどうかを16の項目について聞いた結果、“増えた”という回答が最も多かったのが「食費の節約」で54.2%、以下、「外食費の節約」(50.6%)、「衣料品・服飾品の節約」(49.8%)、「娯楽費の節約」(44.2%)、「お菓子代の節約」(42.3%)など。

節約」(42.3%) などが節約する機会が増えています。一方、“ 増えた ” という回答は少なかったのが「住宅費の節約」(9.2%) 「損害保険の節約」(11.3%) 「教育・教養費の節約」(12.6%) などとなっています。

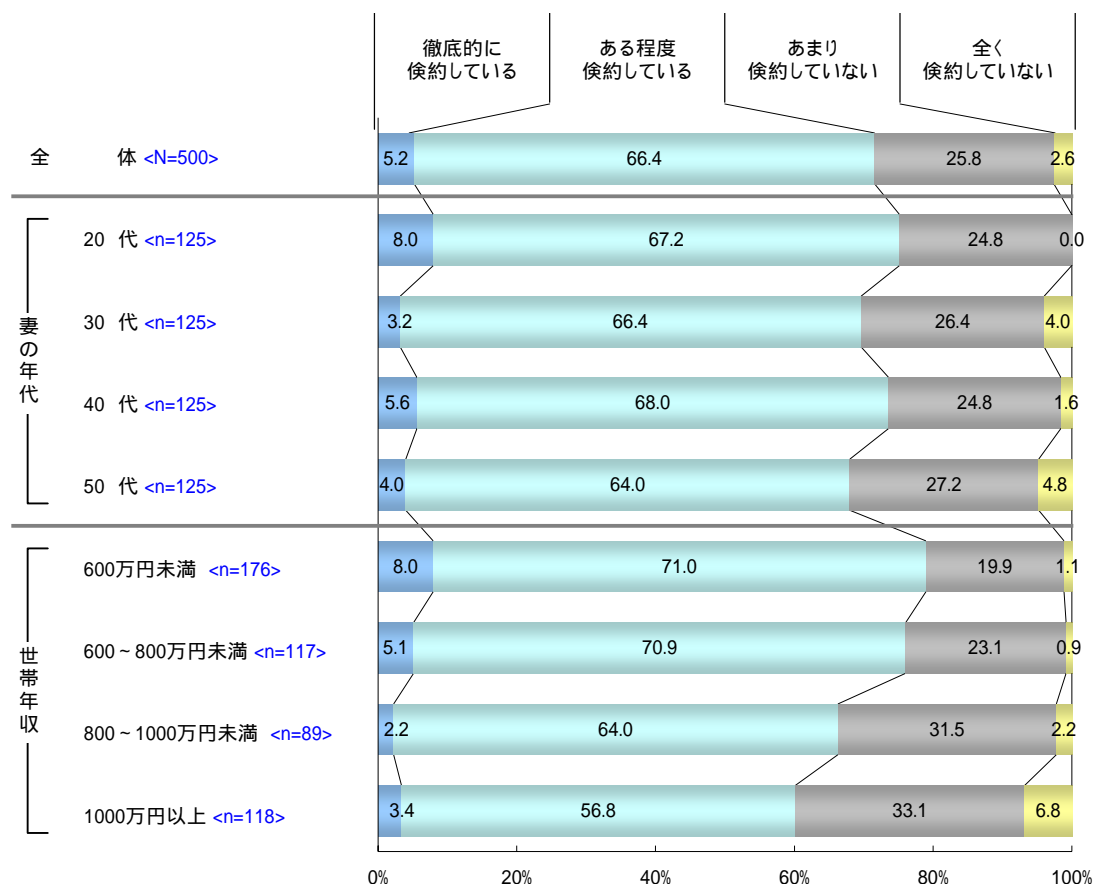
以前に比べ節約する機会が「むしろ減った」という回答は全般に少ないものの、「娯楽費の節約」(12.2%) 「教育費・教養費の節約」(11.8%) 「外食費の節約」(10.7%) などは「むしろ減った」という回答が1割を超えています。

3. “ 倅約生活 ” について

(1) 倅約生活をしているかどうか

家計費節約のために“倅約している”(徹底的に+ある程度倅約している)主婦が71.6%。
 “倅約している”割合は、年代別には目立った違いはなく、世帯年収別でみると年収が高くなるにしたがって減少している。

図 16 . 倅約生活をしているか



家計費節約のために倅約生活をしているかどうかを聞いた結果、「徹底的に倅約している」が5.2%、「ある程度倅約している」が66.4%であり、合わせると“倅約している”という主婦が71.6%を占めています。

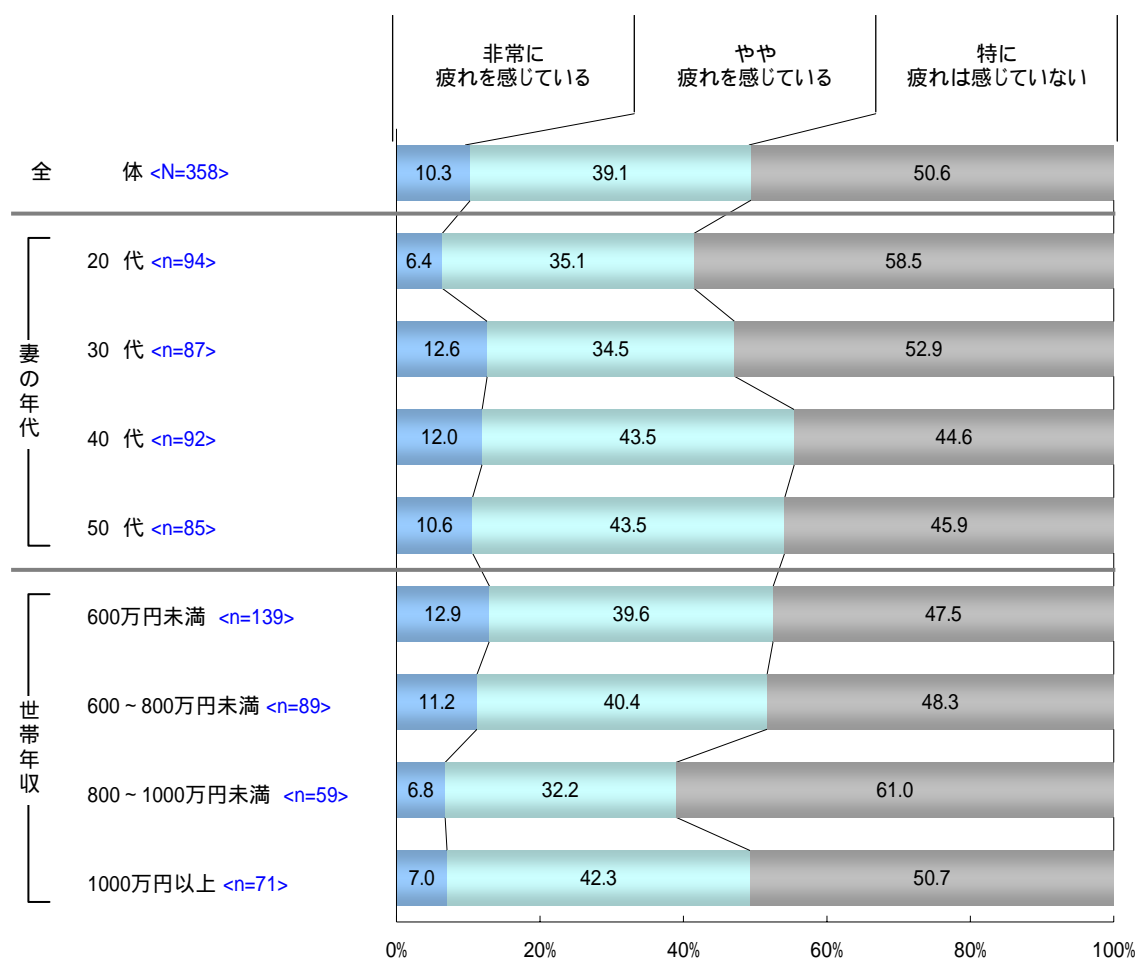
- 年代別にみても大きな違いはありませんが、“倅約している”割合は《20 代》が最も高く75.2%、《50 代》が最も低く68.0%となっています。
- 世帯年収別には、年収が高くなるほど“倅約している”割合は減少し、《600 万円未満》では79.0%と8割弱が“倅約している”と回答しているのに対し、《1,000 万円以上》では60.2%と6割強にとどまっています。

(2) 倭約生活に疲れを感じているか

「非常に疲れを感じている」が約 1 割 (10.3%)、「やや感じている」が約 4 割 (39.1%) で、「特に感じていない」が約 5 割 (50.6%)。

年代が高くなるほど“疲れを感じている”人が多め。

図 17 . 倭約生活に疲れを感じているか



“倭約している”と回答した主婦に、倭約生活に疲れを感じているかどうかを聞いたところ、「非常に疲れを感じている」が 10.3% で約 1 割、「やや感じている」が 39.1% で約 4 割であり、「特に疲れは感じていない」が約 5 割 (50.6%) で半数を占めています。

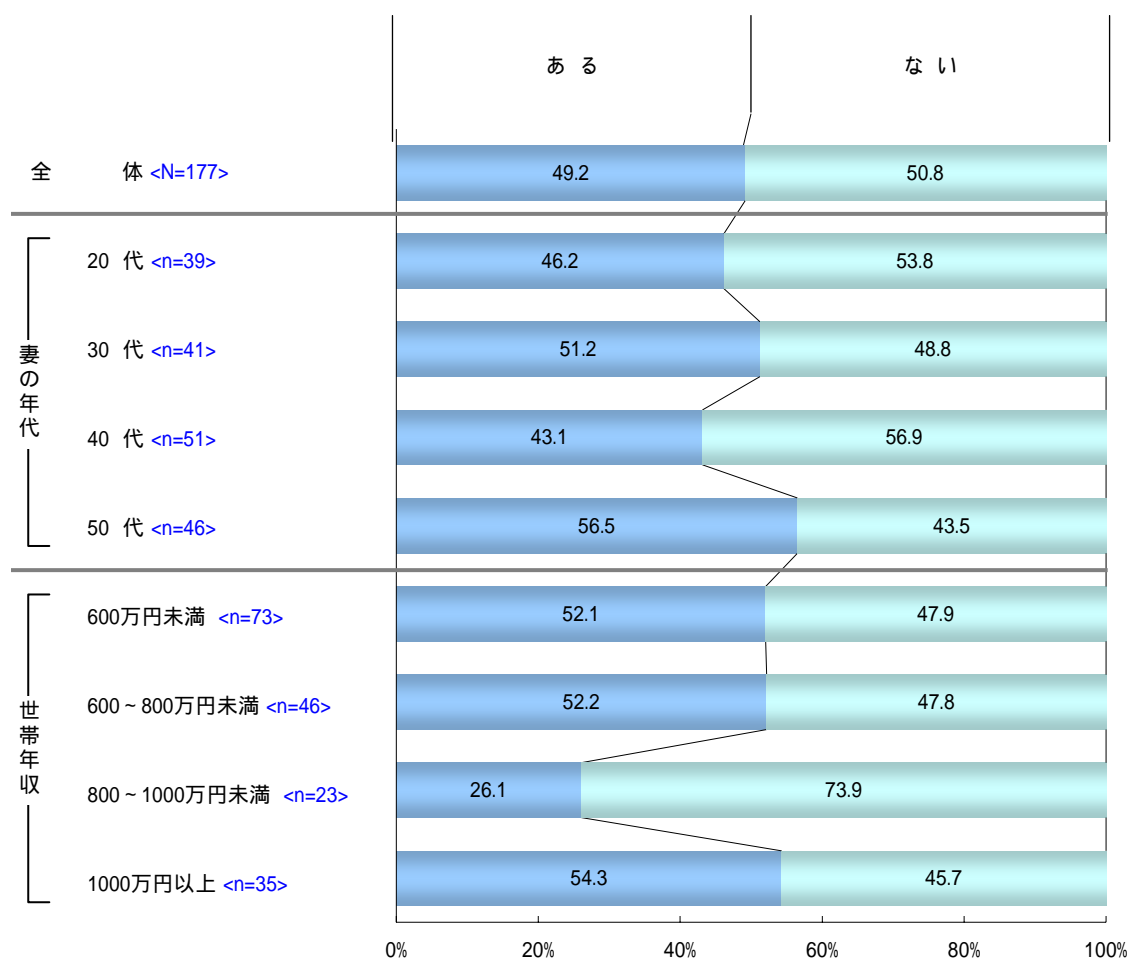
- 年代別にみると、「特に疲れは感じていない」が《20 代》(58.5%) や《30 代》(52.9%) に対し、《40 代》(44.6%)・《50 代》(45.9%) は少なく、年代が高くなるほど“疲れを感じている”人が多めとなっています。
- 世帯年収別では、《800～1,000 万円未満》の層において「特に疲れは感じていない」(61.0%) が 6 割を超えています。

(3) 倅約に疲れて、プチ贅沢をしたこと

「ある」(49.2%)と「ない」(50.8%)がほぼ半々。

「ある」という回答は《50代》(56.5%)で多く、《40代》(43.1%)で少なめ。

図 18 . 倅約に疲れてプチ贅沢をしたこと



“ 倅約生活に疲れを感じている ” と回答した主婦に、気分転換や元気を取り戻すために我慢していたものを買う・家族で外食などのプチ贅沢をしたことがあるかどうかを聞いたところ、「ある」(49.2%)と「ない」(50.8%)がほぼ半々となっています。

- 年代別にみると、「ある」という回答は《50代》(56.5%)で多く、《40代》(43.1%)で少なめとなっています。
- サンプル数が少ないため参考程度ですが、世帯年収別に「ない」割合をみると、《800～1000万円未満》(73.9%)で他年代よりも高くなっています。

(4) プチ贅沢の内容

表 6 . プチ贅沢の内容 (自由回答)

順位		件数
1	外食をした	29
2	洋服や装飾品など、欲しい物を購入をした	20
3	旅行をした	13
4	普段よりもよい食材を買った	7
	お菓子やケーキなどを買った	7
6	衝動買いをした	2

プチ贅沢をしたことが「ある」という人に、プチ贅沢の内容を具体的に聞いた結果を見ると、「家族で外食をした」(29 件) や「洋服や装飾品など、欲しいものを購入した」(20 件) が多くあげられています。以下、「旅行をした」(13 件) 「普段より良い食材を買った」「お菓子やケーキを買った」(各 7 件) 「衝動買いをした」(2 件) などとなっています。

4. 最もよく利用している“ごはんの友”

「納豆」(113件)、「ふりかけ」(80件)、「漬け物」(53件)、「のり」(37件)、「佃煮」(32件)がベスト5。

表 7. 最もよく利用している“ごはんの友”(自由回答)

順位		件数	年代			
			20代	30代	40代	50代
1	納豆	113	39	26	26	22
2	ふりかけ	80	15	22	25	18
3	漬け物	53	11	11	15	16
4	のり	37	8	13	7	9
5	佃煮	32	3	7	6	16
6	食べるラー油	24	6	3	11	4
7	キムチ	19	5	8	3	3
	たまご	19	8	6	3	2
9	お茶漬	16	4	4	6	2
10	炊き込みごはんの素	10	1	1	2	6
11	明太子	9	3	4	0	2
12	塩昆布	7	2	1	3	1
13	なめ茸	6	3	1	2	0
14	しらす干し	4	2	0	2	0
15	鮭フレーク	3	3	0	0	0
	たらこ	3	0	1	0	2
	もやし料理	3	1	0	1	1

おかず代の儉約も兼ねてさまざまな“ごはんの友”などが人気となっていますが、日頃、最もよく使っている“ごはんの友”を1つあげてもらった結果、最も多かったのが「納豆」(113件)で、次いで「ふりかけ」(80件)、「漬け物」(53件)、「のり」(37件)、「佃煮」(32件)などが上位にあげられています。

なお、話題の「食べるラー油」は24件で第6位にあげられ、「キムチ」と「たまご」(各19件)が7位となりました。

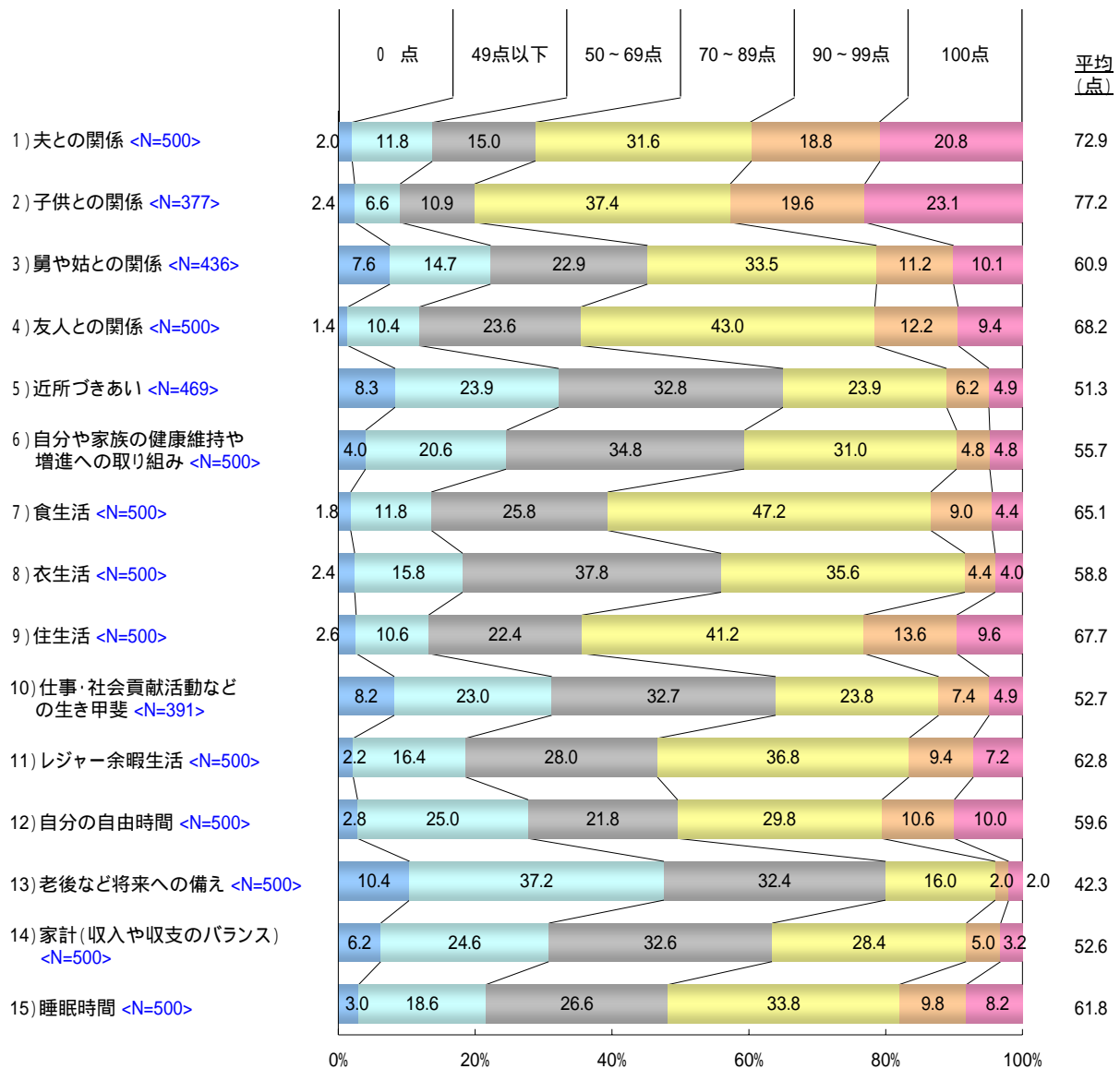
- 年代別にみると、「納豆」は若い年代ほど多くなっています。一方、「佃煮」は《50代》が16件、「食べるラー油」は《40代》が11件と、全体の約半数を占めています。

〔 4 〕 主婦の幸福度

1. 現在の主婦生活の項目別幸福度

「子供との関係」(77.2 点)、「夫との関係」(72.9 点)、「友人との関係」(68.2 点)、「食生活」(65.1 点)などは比較的幸福度が高い。
一方、「老後など将来への備え」(42.3 点)、「近所づきあい」(51.3 点)、「家計(収入や収支のバランス)」(52.6 点)、「仕事・社会貢献活動などの生き甲斐」(52.7 点)などは幸福度が低め。

図 19 . 主婦生活の幸福度



15 項目について現在の主婦生活の幸福度を 100 点満点で聞いた結果をみると、「子供との関係」が平均 77.2 点で最も幸福度が高く、以下、「夫との関係」(72.9 点)「友人との関係」(68.2 点)「食生活」(65.1 点)などが比較的幸福度が高い結果となっています。

一方、「老後など将来への備え」は 42.3 点で最も幸福度が低く、「近所づきあい」(51.3

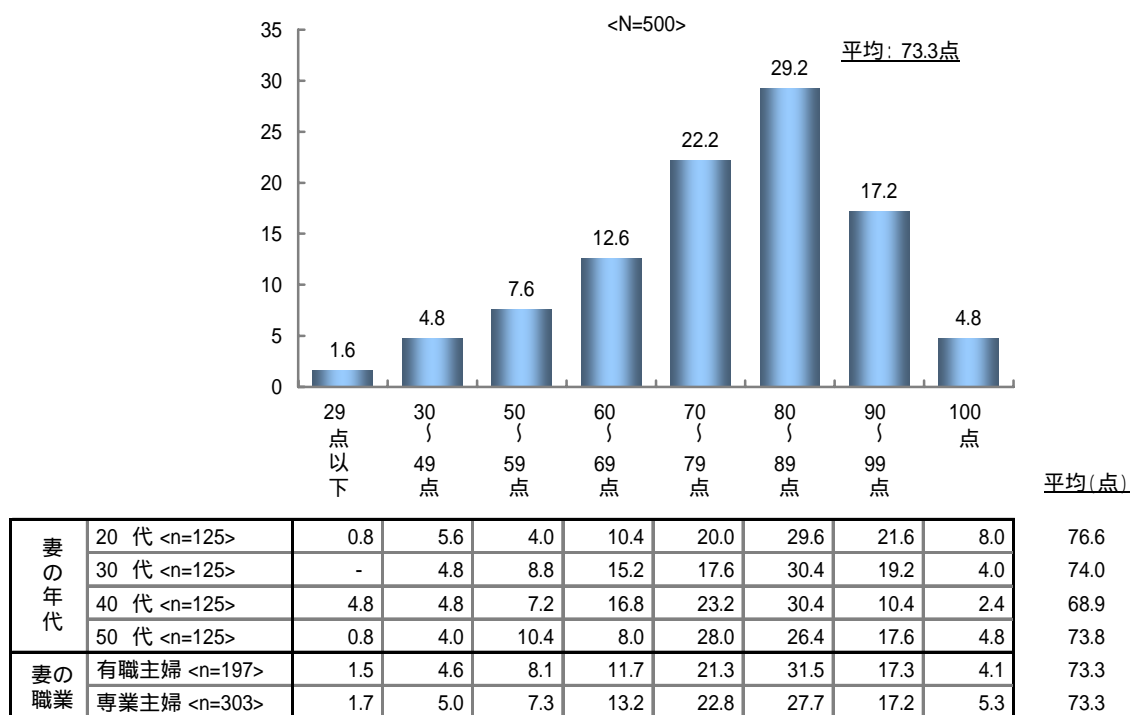
点)「家計(収入や収支のバランス)」(52.6点)「仕事・社会貢献活動などの生き甲斐」(52.7点)なども幸福度が低めとなっています。

子供や夫など家族との関係はうまくいっているが、老後への備えや家計など経済面に不安や不満を抱えている状況がうかがえる結果となっています。

2. 現在の主婦生活の幸福度

現在の主婦生活の幸福度は、100 点満点で「73.3 点」。
 (20 代) の幸福度 (76.6 点) が最も高い。

図 20 . 主婦生活の幸福度



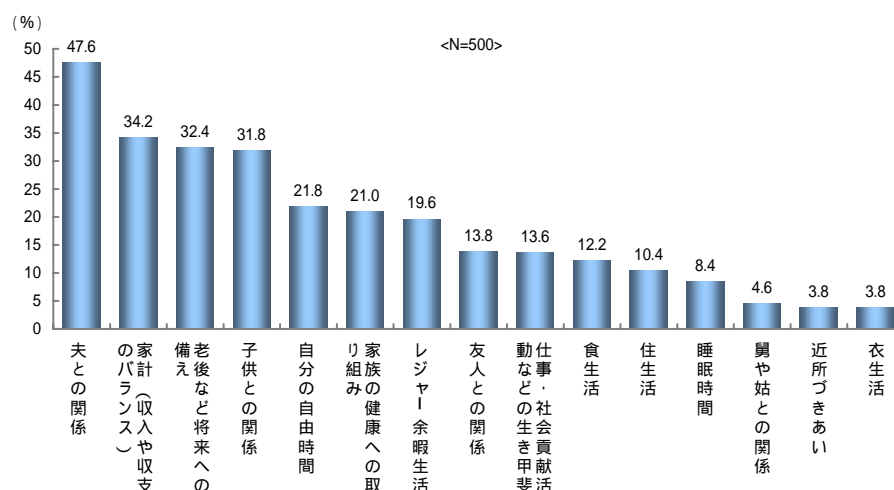
総合的にみた現在の主婦生活の幸福度を 100 点満点で答えてもらった結果をみると、最も多かったのが「80～89 点」で 29.2%、次いで「70～79 点」が 22.2%、「90～99 点」が 17.2%などとなっています。平均は「73.3 点」となっており、比較的主婦生活の幸福度は高いようです。

- 年代別には、《20 代》が平均 76.6 点で最も高く、《40 代》は 68.9 点で最も低い結果となっています。

3. 幸福度を高めるための重要項目

「夫との関係」が 47.6%で最も多く、以下、「家計」が 34.2%、「老後など将来への備え」が 32.4%、「子供との関係」が 31.8%。

図 2 1 . 幸福度を高めるための重要項目（複数回答）



妻の年代	20代 <n=125>	48.0	41.6	20.8	26.4	27.2	15.2	24.8	10.4	16.8	16.0	6.4	6.4	7.2	8.0	6.4
	30代 <n=125>	53.6	39.2	22.4	37.6	16.0	16.8	16.0	15.2	12.8	12.0	11.2	8.8	6.4	4.8	4.0
	40代 <n=125>	48.0	31.2	33.6	36.0	22.4	26.4	19.2	11.2	13.6	15.2	8.0	9.6	3.2	0.8	3.2
	50代 <n=125>	40.8	24.8	52.8	27.2	21.6	25.6	18.4	18.4	11.2	5.6	16.0	8.8	1.6	1.6	1.6
妻の職業	有職主婦 <n=197>	42.6	32.0	32.5	30.5	26.4	17.3	25.4	10.7	14.2	15.7	12.7	10.2	4.6	2.5	2.5
	専業主婦 <n=303>	50.8	35.6	32.3	32.7	18.8	23.4	15.8	15.8	13.2	9.9	8.9	7.3	4.6	4.6	4.6
世帯年収	600万円未満 <n=176>	48.9	42.6	26.7	30.7	22.7	18.2	20.5	13.1	15.9	13.1	6.3	5.7	6.8	4.0	5.7
	600～800万円未満 <n=117>	51.3	37.6	36.8	28.2	15.4	15.4	19.7	12.0	12.8	12.8	12.0	7.7	4.3	6.0	6.0
	800～1000万円未満 <n=89>	41.6	28.1	38.2	30.3	23.6	30.3	15.7	15.7	12.4	15.7	13.5	10.1	1.1	2.2	2.2
	1000万円以上 <n=118>	46.6	22.9	32.2	38.1	25.4	23.7	21.2	15.3	11.9	7.6	12.7	11.9	4.2	2.5	-

主婦生活の幸福度を高めるために充実させたいあるいは重要だと思っていることに対する回答をみると、「夫との関係」が 47.6%で最も多く、半数近くが重要としています。次いで「家計」が 34.2%、「老後など将来への備え」が 32.4%、「子供との関係」が 31.8%となっています。

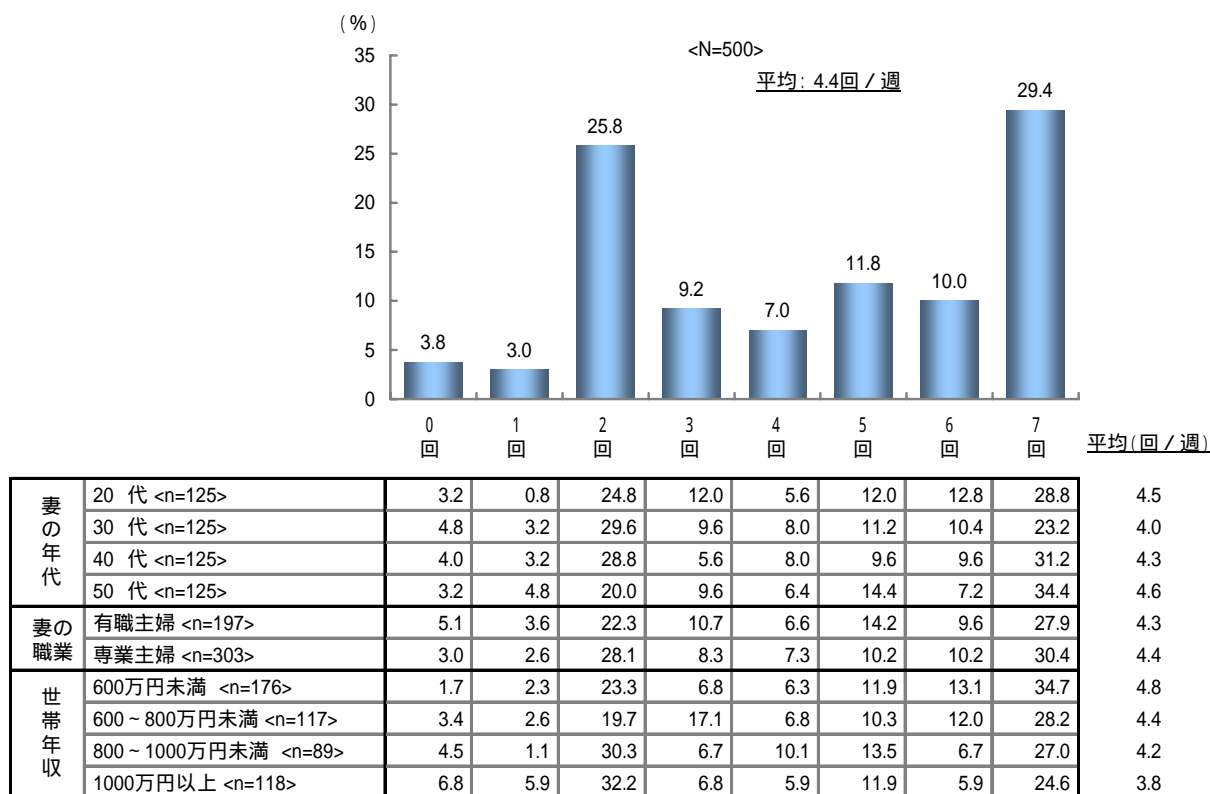
- 年代別には、「家計」は若い年代ほど重視する割合が高く、「老後など将来への備え」は年代が高くなるほど割合が高くなっています。
- また、《専業主婦》の方が「夫との関係」(50.8%) の重視度が高くなっています。

4. 夫婦で一緒に夕食を摂る回数と希望する回数

夕食を共にしている回数は週平均 4.4 回。夫が働き盛りと思われる 30～40 代主婦は夫婦で一緒に夕食を摂る回数がやや少なめ。

夕食を共にしたいと思う希望回数は週平均 4.8 回。(20 代) は平均 5.5 回と最も多い。

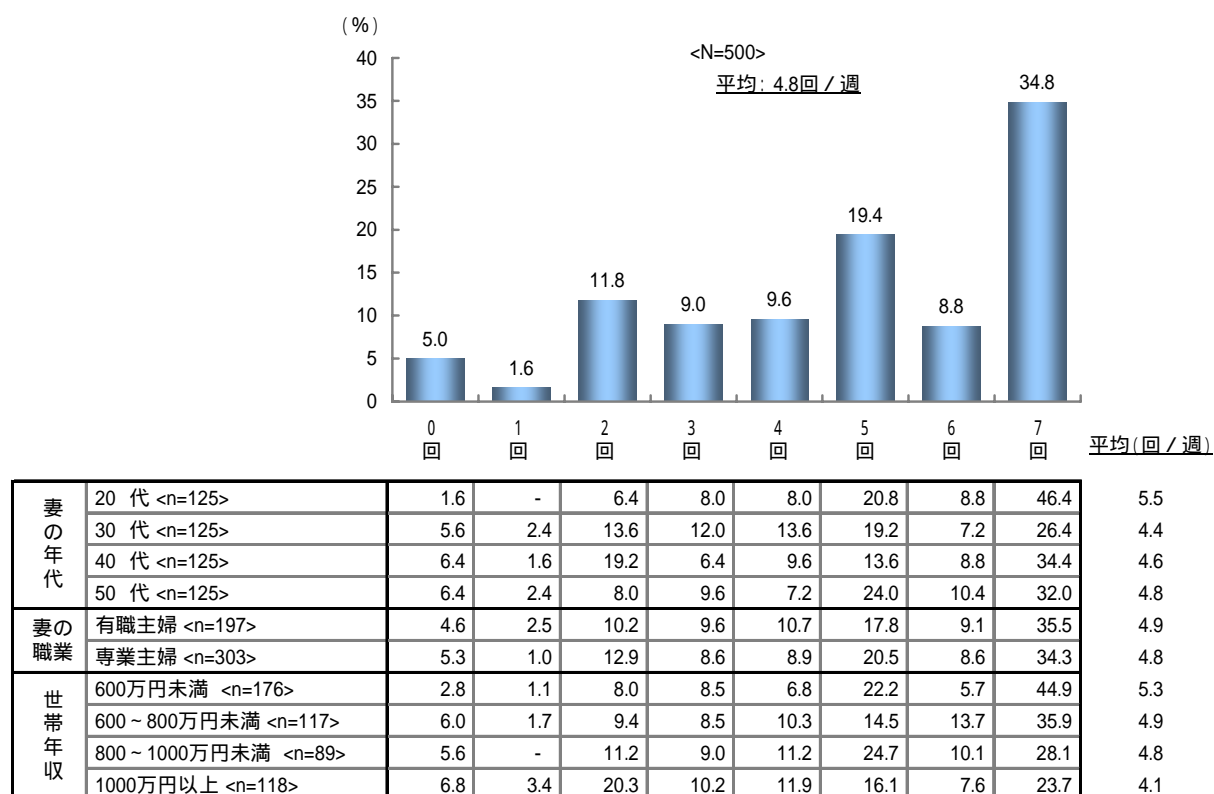
図 2 2 . 夫婦で一緒に夕食を摂る回数



土日を含め 1 週間に夫婦で一緒に夕食を摂る回数を聞いた結果、最も多いのが「7 回 (毎日)」で 29.4%、次いで「2 回」が多く 25.8%、以下、「5 回」(11.8%)、「6 回」(10.0%) などとなっています。平均は「週 4.4 回」となっています。

- 年代別にみても大きな違いはありませんが、《30 代》は平均 4.0 回、《40 代》は 4.3 回で、《20 代》(4.5 回)や《50 代》(4.6 回)を下回っており、《30 代》《40 代》の主婦は夫も働き盛りのためか、夫婦で一緒に夕食を摂る回数がやや少なめとなっています。
- 世帯年収別には、《1,000 万円以上》の高収入層が平均 3.8 回とやや少なくなっています。

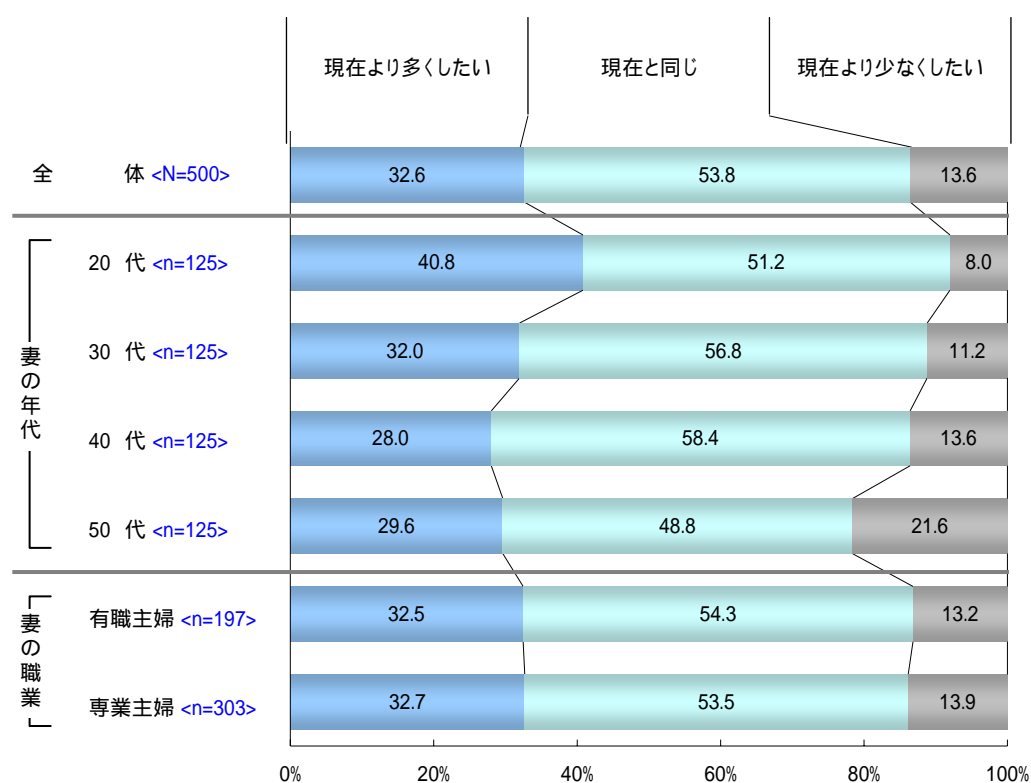
図 23 . 夫婦で一緒に夕食を共にしたい回数



次に、1週間に何回ぐらい夫婦で一緒に夕食を共にしたいと思うかを聞いた結果を見ると、「7回（毎日）」（34.8％）が最も多く、次いで「5回」（19.4％）、「2回」（11.8％）などとなっており、平均は週4.8回となっています。しかし、「0回」（5.0％）や「1回」（1.6％）という回答もみられ、あまり夕食を共にしたいとは思っていない主婦も7％近くいました。

- 年代別にみると、《20代》は「7回（毎日）」が46.4％と半数近くを占めており、平均も5.5回と最も多くなっています。
- 世帯年収別には、《600万円未満》の層が平均5.3回と多くなっています。

図 2 4 . 夫婦で一緒に夕食を共にしたい回数は現在よりも多いか

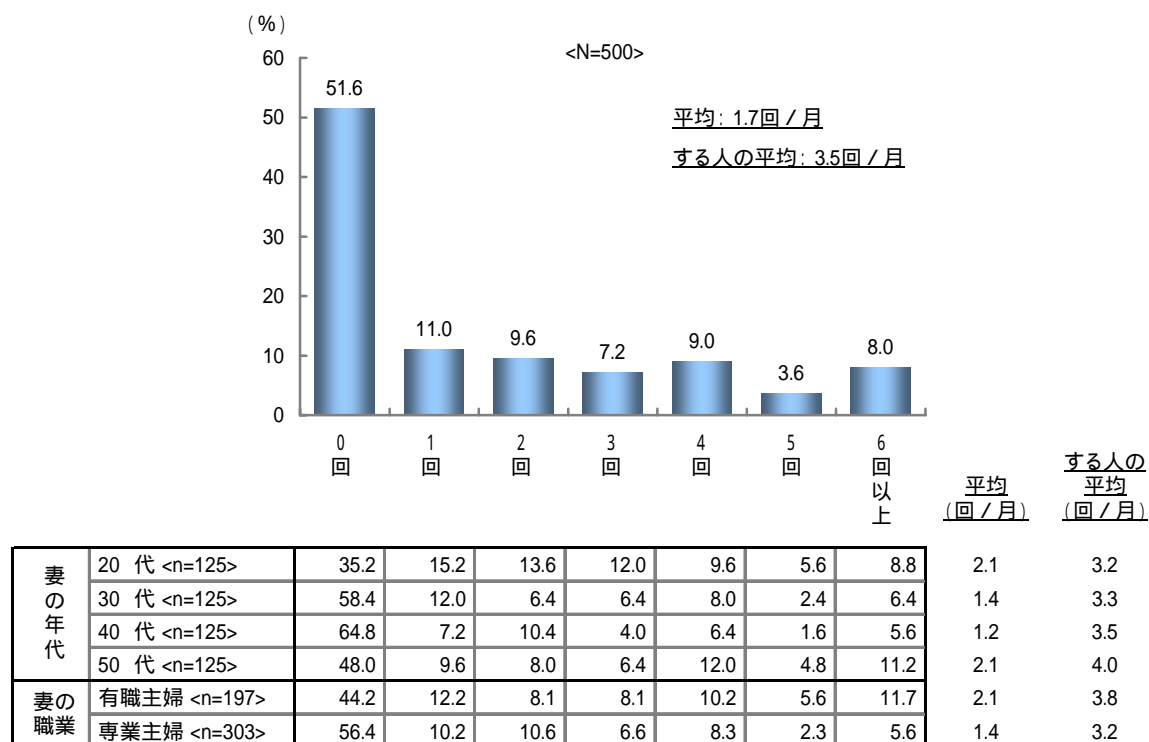


ちなみに、現在の回数と希望する回数の関係を見てみると、夕食を共にする回数は「現在と同じでよい」という回答が 53.8%、「現在より多くしたい」が 32.6%、「現在より少なくしたい」は 13.6%という結果となっています。

5. 夫婦での月平均のデート回数と希望する回数

夫婦での月平均のデート回数は「0回」が半数(51.6%)を占め、平均は「1.7回」。
 (20代)と(50代)は平均2.1回と多め。
 希望回数は平均2.2回。(20代)は2.9回を希望。

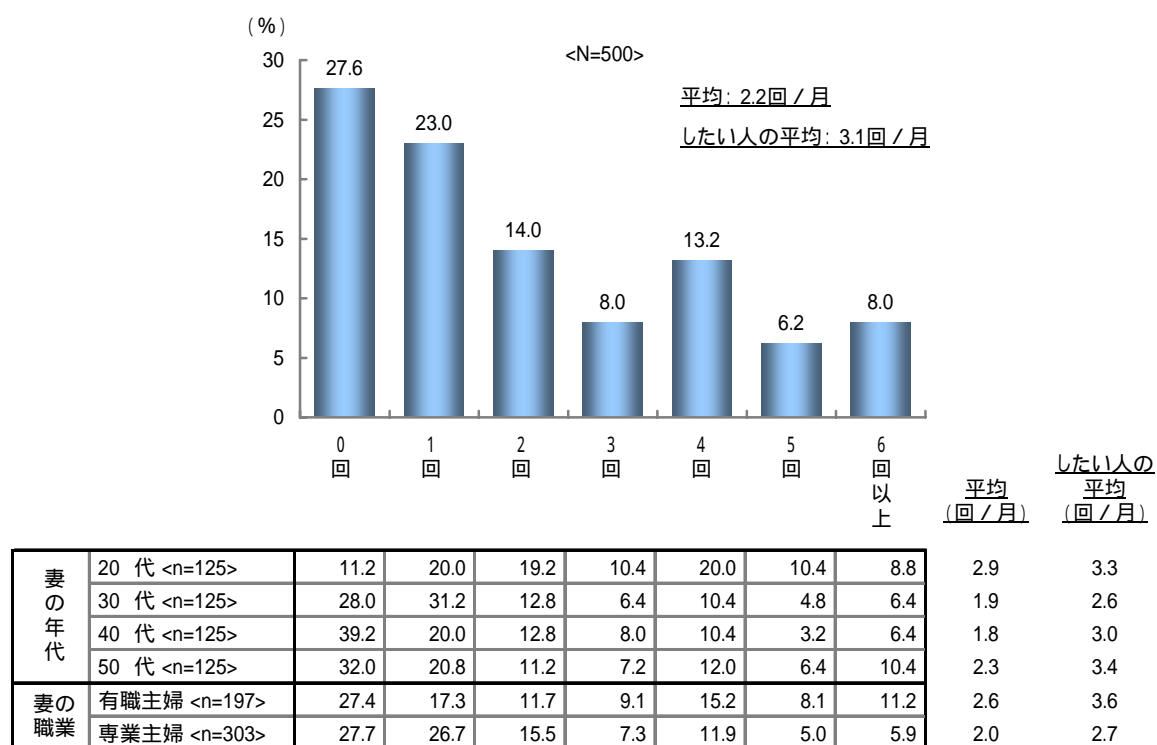
図 25 . 夫婦での月平均デート回数



月平均の夫婦でのデート回数を聞いたところ、最も多いのが「0回」(51.6%)で半数を超えています。平均は「1.7回」となっています。

- 年代別には、《20代》と《50代》は平均2.1回で、《40代》(1.2回)や《30代》(1.4回)を上回っています。夫が働き盛りと思われる《30代》《40代》の主婦はデート回数も少ないという結果となっています。
- 妻の職業別にみると、《有職主婦》(平均2.1回)の方が《専業主婦》(平均1.4回)を上回っており、共稼ぎの方が夫婦でのデート回数が多いという結果となっています。

図 2 6 . 希望する夫婦での月平均デート回数



希望する夫婦での月平均のデート回数を聞いたところ、最も多いのは「0回」(27.6%)ですが、「1回」(23.0%)、「2回」(14.0%)という回答も比較的多く、中には「6回以上」(8.0%)という回答もみられます。平均は「2.2回」で、先にみた実際のデートの平均回数(1.7回)よりも多く、夫婦のコミュニケーションを深めたい傾向があるようです。

- 年代別には、《20代》は平均2.9回と他年代よりも多めです。

6. 夫婦円満のために欠かせない、削りたくないこと

夫婦円満の秘訣トップ3は、「会話・コミュニケーション」(107件)、「外食」(52件)、「旅行」(40件)。

表 8. 夫婦円満のために欠かせない、削りたくないこと（自由回答）

順位		件数
1	会話・コミュニケーション	107
2	外食	52
3	旅行	40
4	食事(一緒に食事する、食費をケチらないなど)	28
5	思いやり、尊敬の念、感謝の気持ち	23
6	一緒にお酒を飲むこと	19
7	趣味	17
8	一人の時間を大切にすること	15
9	映画、サッカー観戦、コンサートなど	12
	我慢	12
11	二人で外出する	11
12	ある程度の距離を置く・あまり干渉しない	9
13	一緒に寝ること	6
	買い物	6
	ゲーム、テレビ、DVD鑑賞など	6
16	ケーキ・スイーツを食べる	5
	ドライブ	5
18	一緒に風呂に入る	4
	笑顔	4
	スキンシップ	4

夫婦円満のために欠かせないあるいは削りたくないことを自由にあげてもらった結果をみると、「会話・コミュニケーション」(107件)が最も多く、次いで「外食」(52件)、「旅行」(40件)、「食事(一緒に食事をする、食費をケチらない)」(28件)、「思いやり、尊敬の念、感謝の気持ち」(23件)、「一緒にお酒を飲むこと」(19件)などが多くあげられました。

夫婦円満のためには、まずは「会話・コミュニケーション」をしっかり行うこと、「一緒に旅行をすること」、「外食や自宅での食事・一緒にお酒を飲むこと」などに加え、いつも「お互いに思いやりや感謝の気持ち、尊敬の念」を持つことが大事だとされています。また、「一人の時間を大切にすること」「ある程度の距離を置く・あまり干渉しない」など、一人でリフレッシュする時間も大切にしているようです。

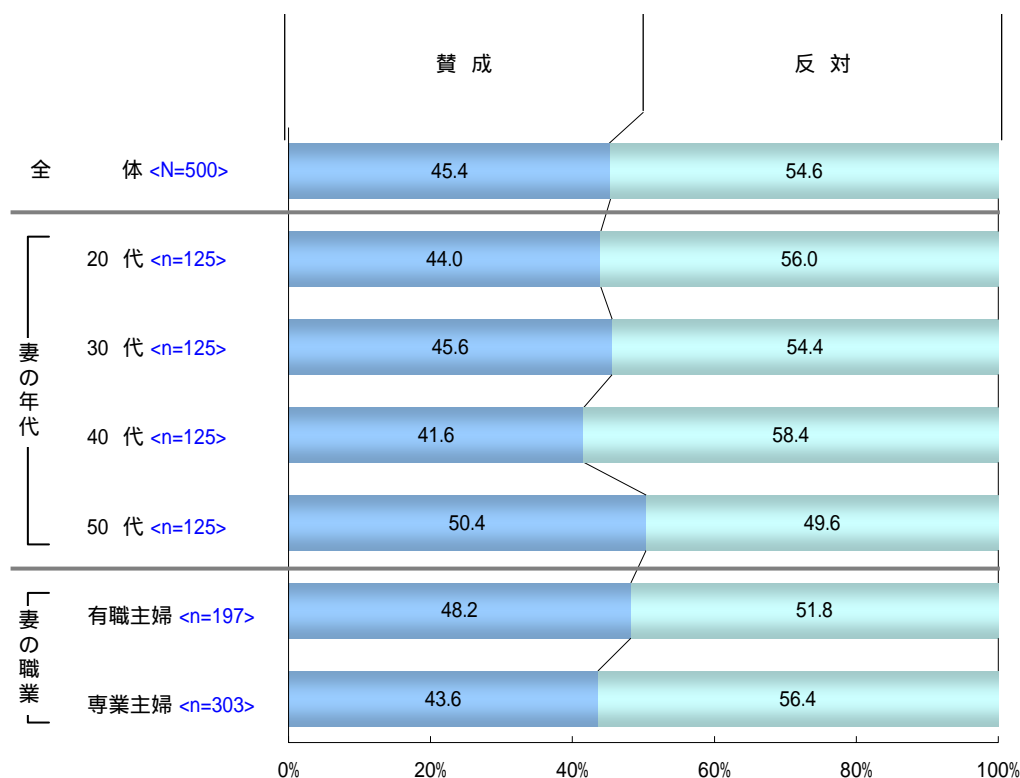
〔 5 〕 長期休暇について

1. 休暇の分散化に対する賛否

休暇の分散化については「賛成」45.4%、「反対」が 54.6%。

「反対」の理由は、「親戚や家族・友人と休日が合わなくなるから」が非常に多く、「賛成」の理由は「観光地や道路の混雑が緩和されるから」。

図 27 . 休暇の分散化に対する賛否



話題になっている休暇の分散化についてその賛否を聞いてみた結果、「賛成」は 45.4%、「反対」が 54.6%でした。やや「反対」が多いという結果です。

- 属性別にみてもあまり差はありませんが、《50 代》のみ「賛成」が少し多くなっています。

表 9 . 休暇分散化に賛成の理由・反対の理由（自由回答）

順位	< 賛成の理由 >	件数	順位	< 反対の理由 >	件数
1	観光地や道路の混雑が緩和される	154	1	親戚や家族・友人と休日が合わなくなる	122
2	ピーク料金がなくなり、安く旅行できる	16	2	仕事が滞ったり、休めなくなりそう	24
3	旅行や外出がしやすくなる	9	3	効果が期待できない、意味がないと思う	19
4	ゆっくりできそう	4	4	必要性を感じない、いまのままでよい	15
	平日にしたいことや行きたいところがある	4	5	もともと祝日や大型連休は仕事	13
6	どうなるか分からないので、やってみればよいと思う	3	6	地域によって休日が違うのは分かりにくい	12
	休みをとりやすい方がよい	3	7	混乱して面倒なことになりそう	8
				一斉に休みをとった方がよい	8
			9	閑散期に休暇をとったり、安く旅行できなくなる	5
			10	祝日の本来の意味が失われる	4

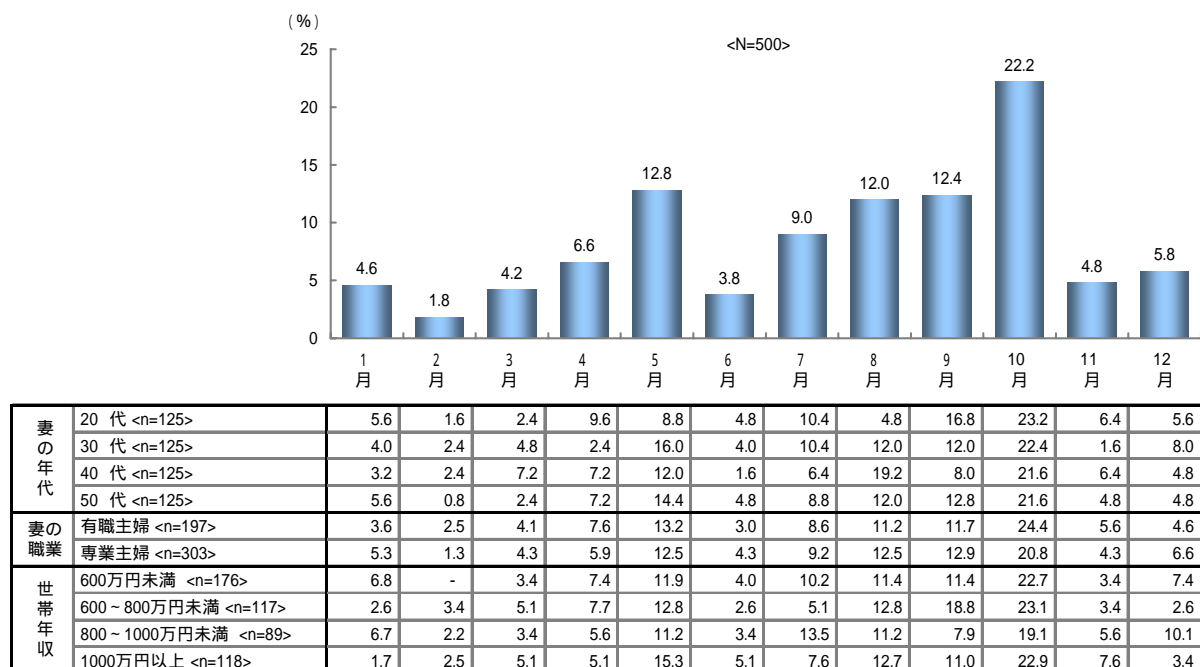
休暇の分散化に“ 反対 ”の理由としては、「親戚や家族・友人と休日が合わなくなる」が 122 件で非常に多く、以下、「仕事が滞ったり、休めなくなりそう」(24 件) 「効果が期待できない・意味がない」(19 件) 「必要性を感じない、いまのままでよい」(15 件) 「もともと祝日や大型連休は仕事」(13 件) 「地域によって休日が違うのは分かりにくい」(12 件) などとなっています。

一方、“ 賛成 ”の理由としては、「観光地や道路の混雑が緩和される」が 154 件で大半を占め、その他には「ピーク料金がなくなり、安く旅行できる」(16 件) 「旅行や外出がしやすくなる」(9 件) などとなっています。

2. 家族揃って休める長期休暇をとりたい時期

「10月」が22.2%で最も多く、以下、「5月」(12.8%)、「9月」(12.4%)が続く。

図 28. 家族揃って長期休暇を取りたい時期



家族揃って休める長期休暇を取りたい時期への回答をみると、「10月」(22.2%)が最も多く、次いで「5月」(12.8%)、以下、「9月」(12.4%)、「8月」(12.0%)、「7月」(9.0%)などとなっており、回答は分散しています。

- 属性別にみてもあまり差はありません。

表 10. その時期に長期休暇をとりたいと思う理由（自由回答：件）

		理想的だと思う理由																
		暑くも寒くもないから / 気候がちょうどよいから	正月だから / 年末年始はゆっくり過ごしたいから	家族の休みと合わせやすいから	景色がきれいな時期なので	誕生日や結婚記念日などがあるから	旅費が安い時期だから	お盆だから / 墓参りに行けるから	空いている時期なので	レジャーやスポーツに適した時期なので	海外旅行がしやすい時期なので	家族に大掃除などの用事を手伝ってもらえるため	食べ物おいしいから	海に行けるから	リフレッシュできるので	祝日がない月なので	その他	特になし・何となく
全体		253	32	28	28	18	15	14	14	13	9	8	6	5	5	4	68	26
理想的な時期	3月～5月	81	1	6	15	1	6	0	4	0	2	0	0	0	2	0	16	2
	6月～8月	25	0	17	1	6	2	14	7	5	4	0	1	4	1	4	29	11
	9月～11月	147	0	3	12	10	6	0	3	2	3	1	5	0	2	0	14	7
	12月～2月	0	31	2	0	1	1	0	0	6	0	7	0	1	0	0	9	6

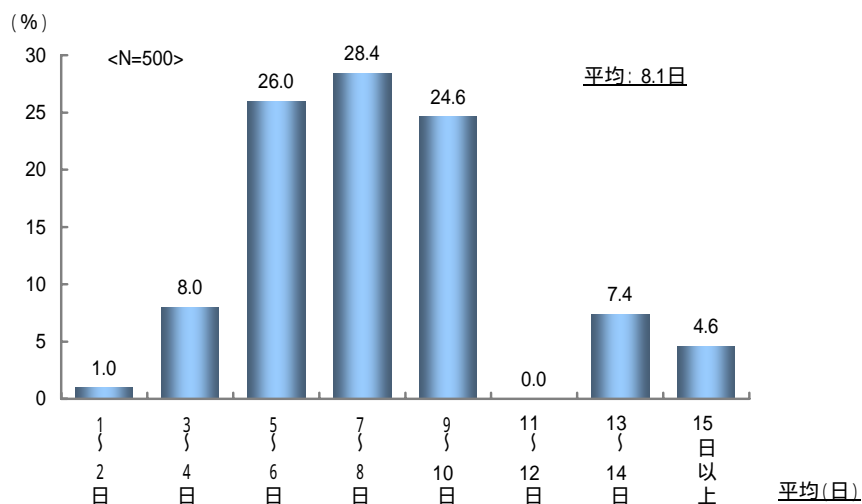
その時期に長期休暇をとりたいと思う理由としては、【9～11月】や【3～5月】は「気候がよいから」や「景色がきれいな時期なので」が多く、【12～2月】は「正月や年末年始はゆっくり過ごしたいから」「家族に大掃除などを手伝ってもらえるから」という理由があげられています。

【6～8月】は「気候がよいから」「家族の休みと合わせやすい」「お盆だから」などがあげられています。

3. 家族揃って休める長期休暇をとりたい日数

「7～8日」が28.4%で最も多く、平均すると「8.1日」。
「13～14日」(7.4%)、「15日以上」(4.6%)という回答もみられる。

図 29 . 長期休暇を取りたい日数



妻の年代	20代 <n=125>	-	6.4	25.6	30.4	24.0	-	5.6	8.0	9.0
	30代 <n=125>	1.6	8.8	28.0	29.6	23.2	-	7.2	1.6	7.4
	40代 <n=125>	0.8	8.0	27.2	26.4	24.0	-	9.6	4.0	8.1
	50代 <n=125>	1.6	8.8	23.2	27.2	27.2	-	7.2	4.8	8.1
妻の職業	有職主婦 <n=197>	1.5	9.6	25.4	24.9	22.8	-	7.6	8.1	8.6
	専業主婦 <n=303>	0.7	6.9	26.4	30.7	25.7	-	7.3	2.3	7.8
世帯年収	600万円未満 <n=176>	1.1	8.0	27.8	27.8	26.7	-	5.7	2.8	8.1
	600～800万円未満 <n=117>	0.9	10.3	25.6	30.8	19.7	-	8.5	4.3	7.8
	800～1000万円未満 <n=89>	2.2	10.1	24.7	28.1	22.5	-	7.9	4.5	7.7
	1000万円以上 <n=118>	-	4.2	24.6	27.1	28.0	-	8.5	7.6	8.8

家族揃って休める長期休暇としてとりたい日数は、「7～8日」が28.4%、「5～6日」が26.0%、「9～10日」が24.6%などとなっています。

また、「13～14日」(7.4%)、「15日以上」(4.6%)という回答もみられ、平均すると「8.1日」という結果になりました。

- 属性別にみても、いずれの属性も「5～10日」に回答が集まっており、あまり差はありません。平均日数をみても《30代》が7.4日とやや少ない程度です。

表 11 . 満足できる理由 (自由回答 : 件)

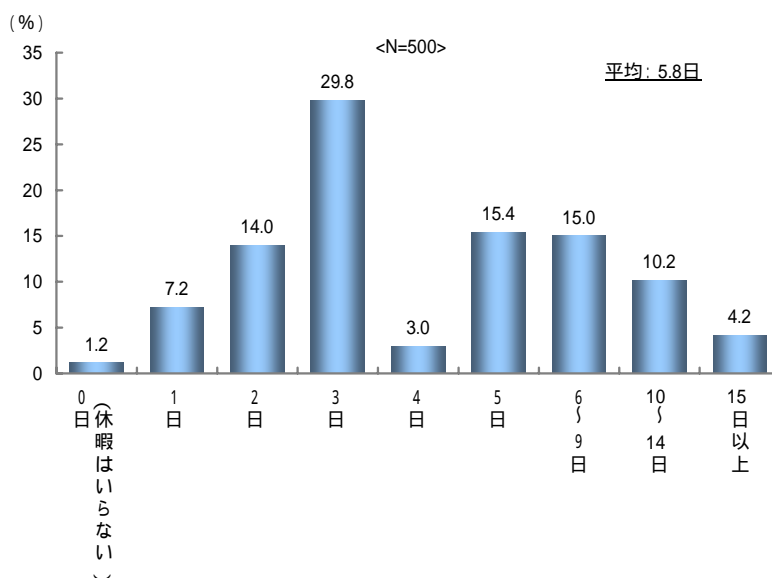
		満足できる理由													
		旅行に行けるから	遊ぶだけでなく、疲れをとる時間もとれるから	海外にも行けるから	飽きたり長いと疲れたり、あまり長いと疲れたり、	リフレッシュできるから	ゆっくり過ごさせてくれるから	長すぎず、短すぎず、ちょうどよいと思うから	支障が出そうだから	これ以上長いと仕事に	あまり長いと出費がかさむから	なんでもできそうだから	十分だと思うから	キリがよいから	普段、なかなか休みがとれないから
全体		211	89	73	41	47	32	9	8	8	5	3	3	3	3
満足できる長期休暇の日数	1～2日	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3～4日	8	3	0	11	1	8	3	1	0	3	0	0	0	0
	5～6日	67	25	8	16	10	11	2	4	1	1	0	0	0	0
	7～8日	57	27	19	12	14	12	2	1	1	1	3	1	2	2
	9～10日	49	24	34	1	14	1	1	1	2	0	0	1	1	1
	11～12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13～14日	19	7	8	0	2	0	0	0	1	4	0	0	1	0
	15日以上	10	3	4	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0

とりたい休暇日数に関する理由としては、【5～10日】とした主婦は「旅行に行けるから」(173件)や「遊ぶだけでなく、疲れをとる時間もとれるから」(76件)「海外にも行けるから」(61件)などが多く、【3～4日】の場合は「あまり長いと疲れたり、飽きたりするから」(11件)「ちょうど良いと思うから」「旅行に行けるから」(いずれも8件)などの理由があげられています。

4. 主婦の日頃の疲れを癒すためにとりたい休暇日数とその時にしたいこと

「3日」が29.8%で最も多く、平均すると「5.8日」。
「15日以上」(4.2%)や「0日(休暇はいらない)」(1.2%)という回答も。

図 30 . 長期休暇を取りたい日数



		平均(日)									
妻の年代	20代 <n=125>	1.6	12.8	14.4	30.4	0.8	12.0	12.8	10.4	4.8	6.2
	30代 <n=125>	1.6	9.6	18.4	30.4	4.0	12.8	12.8	6.4	4.0	4.9
	40代 <n=125>	1.6	5.6	10.4	29.6	4.8	16.0	15.2	13.6	3.2	6.2
	50代 <n=125>	-	0.8	12.8	28.8	2.4	20.8	19.2	10.4	4.8	6.0
妻の職業	有職主婦 <n=197>	0.5	4.1	13.7	31.0	4.1	15.2	13.2	12.2	6.1	7.0
	専業主婦 <n=303>	1.7	9.2	14.2	29.0	2.3	15.5	16.2	8.9	3.0	5.0
世帯年収	600万円未満 <n=176>	2.3	10.8	15.3	31.3	1.7	12.5	14.8	9.1	2.3	5.5
	600～800万円未満 <n=117>	0.9	7.7	17.1	29.9	2.6	17.9	12.0	6.8	5.1	5.1
	800～1000万円未満 <n=89>	1.1	6.7	13.5	33.7	4.5	12.4	12.4	12.4	3.4	5.7
	1000万円以上 <n=118>	-	1.7	9.3	24.6	4.2	19.5	20.3	13.6	6.8	7.0

主婦の日頃の疲れを癒すために自分がとりたい休暇日数については、「3日」が29.8%で最も多く、以下、「5日」が15.4%、「6～9日」が15.0%となっています。

中には、「15日以上」(4.2%)や「0日(休暇はいらない)」(1.2%)という回答もみられ、平均すると「5.8日」という結果になりました。

- 属性別にみても、いずれの属性も「3日」という回答が多く、あまり差はありません。平均日数をみると、《30代》は4.9日と比較的少なく、《有職主婦》や世帯年収《1,000万円以上》の高収入層は、いずれも7.0日とやや多くなっています。

表 12. だれと、どんなことをしたいか（自由回答：件）

		休暇でしたいこと												
		旅行	何もせずのんびりする・ゆっくりと寝る	温泉	読書や映画など、趣味を楽しむ	ショッピング	レジャー	エステやマッサージ	おいしいものを食べる	実家に帰る	お酒を飲む	おしゃべりする	お茶をする	家の掃除や片付け
全体		220	76	64	35	32	24	19	16	9	8	6	6	5
誰と	一人で	25	58	11	29	11	2	11	4	2	0	0	2	5
	友人と	86	5	19	2	10	5	5	7	1	6	6	5	0
	夫と	52	6	21	6	5	10	1	3	2	1	0	0	0
	家族みんなで	44	7	5	1	5	7	0	0	2	1	0	0	0
	親と	13	0	6	0	3	0	3	4	0	1	2	0	0
	子供と	10	1	2	0	3	1	0	0	4	0	0	0	0
	兄弟・姉妹と	11	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	その他の人と	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

主婦の休暇をとってしたいことは、「旅行」が 220 件で圧倒的に多く、一緒に行きたい相手は【友人】(86 件) 【夫】(52 件) 【家族みんなで】(44 件) という結果となりました。【一人で】(25 件) という回答もみられますが、それは少数派といえそうです。

次に多いのが「何もせずのんびりする・ゆっくりと寝る」(76 件) で、以下、「温泉に行く」(64 件) 「読書や映画など趣味を楽しむ」(35 件) 「ショッピング」(32 件) などが多くあげられています。